

Annual Report

2025



関西学院大学 人間福祉学部
実践教育年報

2025 年度年報 目 次

はじめに	1
建学の精神と実践教育の位置づけ	2
実践教育支援室の位置づけと機能	4

社 会 福 祉 学 科

(1) カリキュラムフロー	6
(2) 実践教育科目	
ソーシャルワーク実習入門	7
ソーシャルワーク実習	10
精神保健福祉援助実習	12
学校ソーシャルワーク実習	14
(3) 実践教育関連科目	
ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	16
ソーシャルワーク演習Ⅳ	18
ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	21
ソーシャルワーク演習Ⅴ	23
ソーシャルワーク論B	25
ソーシャルワーク論F	27

社 会 起 業 学 科

(1) カリキュラムフロー	28
(2) 実践教育科目	
社会起業フィールドワーク（国内）	30
社会起業フィールドワーク（海外）	32
社会起業プラクティス	34
社会起業アドバンスト・インターンシップ	36

人間科学科

(1) カリキュラムフロー	37
(2) 実践教育科目	
人間科学実習入門	38
(3) 実践教育関連科目	
運動生理学実験実習	39
スポーツバイオメカニクス実験実習	40
野外教育実習 A	41

3 学科共通科目

(1) 実践教育関連科目	
人間福祉国内フィールドスタディⅠ	42
人間福祉国内フィールドスタディⅡ	43
人間福祉国内フィールドスタディⅢ	44
人間福祉海外フィールドスタディⅠ	45
人間福祉海外フィールドスタディⅡ	46
人間福祉海外フィールドスタディⅢ	47
(2) 実践教育科目	
人間福祉フィールドスタディ	48

人間福祉研究科

アドバンスト・フィールドワーク	49
-----------------	----

正課外での取り組み

社会福祉士・精神保健福祉士国家試験☆合格塾☆	50
ソーシャルワーク実習合同懇談会	52
社会起業学科 新入生歓迎プログラム「これが社起やDAY！！2025」	53
人間福祉学部 実践教育報告会	54
福祉系進路相談セミナー	56

資 料

2025年度 実習・インターンシップ等概要データ	57
2025年度 実習・インターンシップ・フィールドワーク先一覧	58
2025年度 実践教育科目担当教員一覧	65
2025年度 発行物一覧	69

はじめに

関西学院大学人間福祉学部実践教育支援室より、2025年度のAnnual Report（実践教育年報）をお届けいたします。

社会福祉学科では、2021年度から始まった社会福祉士養成教育の第3次新カリキュラム導入に伴う、240時間・2箇所実習の3年目が終わり、結果的に3年間、毎年異なるパターンでのA実習の実施となり、実習先の皆様には本当にお手数をおかけいたしました。2箇所実習の実施方法は、本学における社会福祉士養成のあり方ともリンクしているものであり、実習科目のみならず、演習科目についても現在、学科での検討を継続しているところです。社会起業学科では、新たに策定されたカリキュラムの運用が始まった一年でした。新しいカリキュラムでは、1回生の時から、学生のプランに対して外部のアントレプレナーのフィードバックを得ることができるような機会もあり、本学社会起業学科らしい学びの機会となっていくことが期待されています。人間科学科においても、様々な工夫をこらしながら人間科学実習入門の授業での合宿が行われました。

2020年度に新設され5年目を迎えた、3学科共通の実践教育科目である人間福祉フィールドスタディですが、国内では約20箇所のフィールドで、海外はニュージーランド、フィリピン等でのフィールドスタディが実施されました。事前・事後学習の方法も整い、多くの学生が履修するようになりましたが、さらに今後に向けての課題に対応する必要も出ています。

本学では、こうした実践教育のまとめとして、12月に学部行事としての実践教育報告会を実施、学生たちがそれぞれの成果を発表し、お互いの学びを共有する機会を設けており、現場の指導者の皆様にも多数ご来場いただきました。

このような人間福祉学部の特徴でもある、充実した実践教育プログラムの実施が可能になっていることは、一重に実習先、フィールドワーク先の現場で学生を受け入れていただき、ご指導をいただいている関係者の皆様のご協力があってこそのものであります。改めまして、お忙しい業務の中、本学の実践教育に対する多大なるご支援、ご配慮、ご指導をいただいていることに心よりのお礼を申し上げます。

本学人間福祉学部のミッションである3つのCの具現化、社会における様々な課題に対するソリューションに向けて貢献できる人材養成を目指して、今後もより充実した実践教育の展開に向けて、教育・研究機関としての教育内容、体制の向上に努めて参ります。どうぞ、引き続きのご指導、ご鞭撻をいただきますよう何卒よろしく願いいたします。2025年度の総括としての年報をご一読いただき、率直なご意見、ご要望をいただければ幸いです。

関西学院大学人間福祉学部
実践教育支援室
室長 川島恵美

建学の精神と実践教育の位置付け

● 建学の精神 ●

本学の教育は、キリスト教主義を基礎とした実践的な学びの重視をその伝統としている。本学キリスト教主義には、第4代院長 C・L・ベーツ博士が唱えた“Mastery for Service”（奉仕のための練達）というスクールモットーとして表現された「社会福祉の精神」がその根底にあり、それら両者が本学における教育のバックボーンを形成しているといえる。すなわち、本学の教育には、建学の精神であるキリスト教主義と、スクールモットーとによって裏付けられた「社会福祉の精神」が脈々と流れているのである。この本学の教育理念は、具体的な社会福祉の実践において、謙虚さと人を愛する行為に表される。言うまでもなく価値・倫理を備えた専門的実践者の養成は、一つの宗教的背景のみによってなされ得るものではないが、今後いっそうの拡大と重要性が増す社会福祉において、本学の教育が果たし得る役割を増大するものとする。それは本学に学ぶ者の「人への思いやり」、「豊かな情操と人道的素地をもって福祉に取り組む力」に反映されると確信している。

● 人間福祉学部の意義と目的 ●

本学人間福祉学部は、ニーズが拡大する日本の社会福祉における専門教育機関として、上記の建学の精神の「奉仕のための練達」を土台とする、文学部社会事業学科からの伝統ある社会福祉教育をより一層充実させ、21世紀の福祉を担う人材養成に貢献するために2008年4月に創設された。その教育目標は、次の3つの「C」を身につけ、専門職としてあるいは市民として社会福祉の向上に貢献する人材を育成することにある。

- ① グローバルに考え、具体的かつ創造的に行動する力（Comprehensiveness）
- ② 高度な問題解決とマネジメントを行う能力（Competence）
- ③ 豊かな情操と人道的素地をもって福祉に取り組む能力（Compassion）

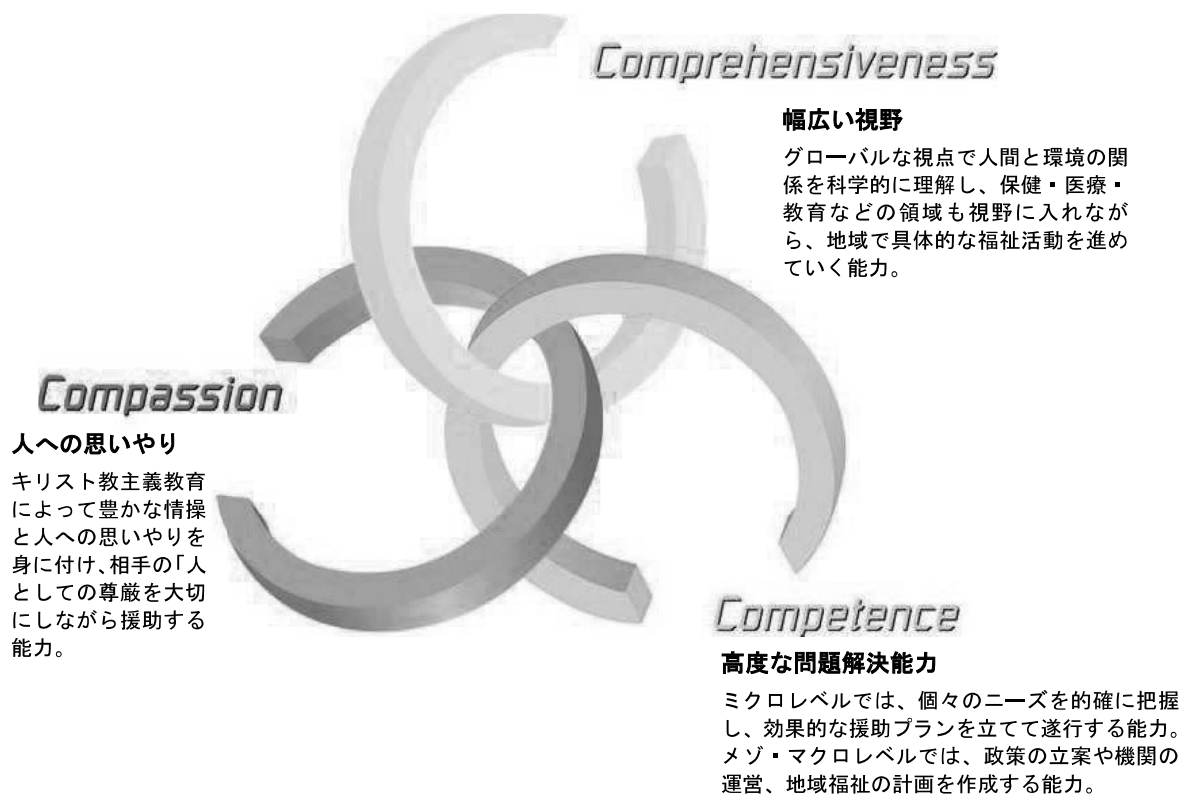
特に②の能力は、専門職であれ地域のリーダーであれ、福祉の推進を実践する力（Competence）として重要なものである。この能力が広い視野（Comprehensiveness）とキリスト教主義教育によって培われた人としての思いやり（Compassion）と一つになる時、21世紀の福祉を支える極めて有用な人材が育成されるものとする。

● 建学の精神 ●

本学部の実践教育は、先述のような人材を育成するために不可欠なカリキュラムであり、社会福祉教育の根幹をなすものである。具体的には、本学部の実践教育では以下の内容を重視する。

- ① 社会福祉の価値を学ぶ。
- ② 福祉ニーズの個別性と独自性を学ぶ。
- ③ 問題解決にとって効果的な社会福祉の援助方法を学ぶ。
- ④ 社会福祉援助に必要な態度について学ぶ。
- ⑤ 社会福祉援助を評価する調査方法を学ぶ。
- ⑥ 施設・機関の機能、役割と社会制度における位置づけを学ぶ。
- ⑦ 施設・機関の運営や社会資源の活用の方法を学ぶ。
- ⑧ 施設・機関職員の業務に対する姿勢について学ぶ。
- ⑨ 施設・機関の抱える諸問題と解決方法について学ぶ。

● 3つのCがキーワード ●



実践教育支援室の位置づけと機能

実践教育支援室は、本学人間福祉学部の実習やインターンシップ等の実践教育が、スムーズかつ実りあるものとなるよう、学生をサポートしている。社会福祉施設をはじめとして200近くの幅広い施設や機関等と学生との橋渡しの存在である。

職員体制

室長 1人 / 教授 1人 / 助教 2人 / 実習助手 5人 / 事務職員 2人

場 所

G号館2階

開室時間

月～金曜日 8:50～16:50 ※木曜日のみ 8:50～18:40
(休暇期間中等は変更)



主な業務

◆教育体制を整える

- 実践教育関連科目のプランニングとコーディネート
- 実践教育関連科目を履修する学生の個別ニーズに応じたサポート

◆連携体制を整える

- 実践教育機関との連携構築と維持
- 実習配属および実習先との連絡調整
- 本学OB・OGとの連携構築と維持
- ソーシャルワーク教育学校連盟・社会福祉士会・精神保健福祉士協会等の関連団体との協力

◆調査・研究体制を充実させる

- 実践教育に関する調査・研究の推進
- 実践教育プログラムおよび教材の開発

教室紹介

(1) 多機能演習室

多機能演習室は、様々な用途で使用でき、土足厳禁の広いスペースとなっているので、多人数のワークショップやフロアでの作業も可能である。また、可動式のモニター、ビデオカメラ等を設置すると、コミュニケーションラボとしても使用することができる。福祉や教育など人と人のかかわりが中心となる場面では、様々なコミュニケーションが重要な役割を果たすことになる。特にソーシャルワーク実践においては、より良いコミュニケーションスキルはあらゆる側面で必要とされると言われている。そのために、まず自分自身の持つコミュニケーションパターンを理解し、状況に応じたスキルトレーニングを行うことが欠かせない。そこで本学ではコミュニケーションラボシステムを使って体験的な学びの場を展開している。ラボでは、ビデオカメラ、モニター、DVD/VHSプレイヤー、デジタルAVミキサーなどの機器を用い、面接シミュレーションやロールプレイングを行い、録画した面接場面の映像を利用してフィードバックや分析などを行う。また、ラボ用に開発されたアクション型のDVD教材を用いての応答パターン演習など様々な実践的かつ体験的な学びの機会を提供している。



(2) 面接室・観察室

面接室はビデオカメラが2台天井に設置されており、面接室全体の録画が可能である。また、面接室と観察室の間にone-way-mirrorが設置されており、面接室の状況を観察室からリアルタイムで観察することができる。こうした準備教育によって、現場での実習やフィールドワークの場面に自信を持って臨むことが可能となる。



(3) グループワーク室

演習や実習指導、学生の正課外での社会貢献活動、各種実践教育に関連する会議やゼミナール・研究会等、様々な用途で利用されている。



(4) 個人面談室

学生の相談、個別の実習指導等で使用されている。



ソーシャルワーク実習入門

【担当教員】川島 恵美、畠山 由佳子、竹森 美穂、平尾 昌也

【授業目的】

本科目は、社会福祉学科における実践教育指導の第一段階として、タウンウォッチング、ボランティア体験を通じて、地域や現代社会に関する現状把握を行い、基本的な知識を増進させると同時に、千刈合宿での体験学習を通じて実践教育に必要な人間関係における基本的価値や態度について学ぶことを目的とする。

【授業内容】

○合宿を通じた体験学習

日 時：2025年10月18日（土）～19日（日）1泊2日

場 所：関西学院千刈キャンプ

参加者：履修学生 80名 LA14名 教員 5名 実習助手 3名

10月18日（土）一日目

11:00 オリエンテーション

12:00 昼食

13:00 セッションⅠ：自分と関わる

14:00 セッションⅡ：仲間と関わる
～千刈オリエンテーリング

18:00 夕食

19:00 セッションⅢ：先輩と関わる
ぶっちゃけトークセッション

20:30 フリートーク・入浴



10月19日（日）二日目

7:30 朝食

8:40 モーニングサービス（礼拝）

9:00 セッションⅣ：実践教育と関わる
～ラベルワーク・発表報告

12:00 昼食



13:00 合宿の振り返りとまとめ

14:30 解散



○タウンウォッチング

今年度は、昨年度に引き続きタウンウォッチングにフォトボイスの手法を応用導入した。具体的には、①キャンパスウォッチング（フォトボイス導入）、②キャンパスウォッチングふりかえり/わかちあい（写真展）、③タウンウォッチングふりかえり、④タウンウォッチングわかちあい（写真展）というスケジュールで実施した。

①事前学習ではフォトボイスの導入として、写真を読む訓練を実施した。タウンウォッチングの予行演習としてキャンパスウォッチングを実施した。人が仲良く集まれそうな場所・様子、気になる人・もの・場所・様子、自慢と思うもの、不便と思う人・もの・場所・様子など8つのテーマに基づき、写真を撮り、次回に向けてフォトボイスの作成を指示した。

②フォトボイスの手法に関するミニレクチャーを行った。加えて、キャンパスウォッチングを通じて作成したフォトボイスのふりかえり、わかちあいとして写真展「私たちの KG」を開催し、同様の手順で各自がタウンウォッチングに取り組んだ。

③ふりかえりでは、各自が作成したフォトボイス作品をグループ内で分かち合い、私たちが暮らすまちに関して洞察を深めた。タウンウォッチングの写真展に向けてグループでの準備にとりくんだ。④ではグループで共有した結果を模造紙にまとめ、写真展「自分のまち再発見」として全体のわかちあいとした。



○ボランティア体験

今年度から新たにボランティア体験をプログラムとして導入した。社会福祉を学びソーシャルワーク実習に向かう学生自身が、大学から出て、地域で行われている活動等にボランティアとして参加し、身近な社会福祉の現場に触れる機会となった。単にボランティアを体験するのではなく、ボランティア先での取り組みをどのような視点で観察するのか。さらに観察した内容を記録として残すのかについて事前学習を行なった。また、ボランティア実施に向けては、本学ヒューマン・サービス支援室と西宮市社会福祉協議会ボランティアセンターに情報提供及びコーディネートの協力を得ることができた。

ボランティア体験を終えた後、それぞれが体験したことを共有する中で、社会福祉やボランティアがより身近なものであることや、自分たちが暮らす地域の中で支え合いの取り組みが行われていること、活動者も参加者も一緒に楽しみながら活動が展開されていることなどに気づきを得ることができた。何より、自分自身も地域の一員として役割を担えることを実感することができたようであった。

○授業全体の学びのふりかえり

まず、授業全体を振り返るビデオを見た後、自身がこの授業で学んだことを各自でふりかえった。その後グループワークを通じて各自の振り返りを共有し、共有内容をふまえてグループごとに発表を行った。

ソーシャルワーク実習

【巡回担当教員】

安藤 幸、井岡 仁志、池埜 聡、石田 龍太、今井 小の実、岡本 みゆき、川島 恵美、
児玉 志保、小林 浩司、佐藤 寿一、高橋 昌子、高橋 爾、高橋 味央、竹森 美穂、
田嶋 香苗、中島 尚美、永峰 千鶴、西尾 怜、西田 麻由香、畠山 由佳子、林 眞帆、
原 弘輝、平井 亜里砂、平尾 昌也、廣瀬 みどり、福田 孝子、藤井 博志、前川 敦、
松岡 克尚、渡邊 健

【授業内容】

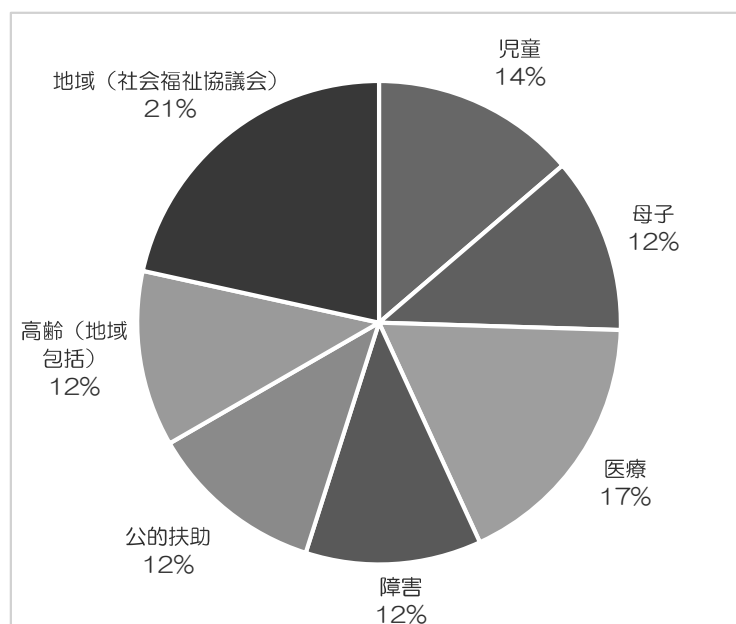
社会福祉士を目指す学生を対象に、厚生労働省指定の2箇所の実習施設において240時間の実習を行う。現場実習を通して社会福祉専門職に必要な職業倫理、専門知識、専門援助技術、関連知識を学び、対象者理解および援助技法の適応を試みる。

【方法】

実習先施設／機関は公的扶助領域（福祉事務所、救護施設）、児童領域（児童相談所、児童養護施設、児童心理治療施設、児童自立支援施設）、障害領域（児童発達支援センター、障害者支援施設）、母子領域（母子生活支援施設）、高齢領域（地域包括支援センター、特別養護老人ホーム）、地域領域（社会福祉協議会）、医療領域（病院）等で、原則としてA実習（40時間）は春学期期間中に集中型、B実習（200時間）は夏期休暇期間中に集中型で実習を行う。また実習に先立ち、担当者によるオリエンテーションを行うとともに、実習事前訪問、実習期間中の巡回指導、帰校指導など定期的にスーパービジョンを行う。

【2025年度領域別実習配属人数】

児童	7人
母子	6人
医療	9人
障害	6人
公的扶助	6人
高齢（地域包括）	6人
地域（社会福祉協議会）	11人
実習生合計	51人



【ソーシャルワーク実習の流れ】

1. ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（2年生秋学期）

翌年のソーシャルワーク実習に向けて、実習へのモチベーションを明確にし、実習配属に向けての個別面談、配属テスト、準備学習を行う。



2. ソーシャルワーク演習Ⅳ、ソーシャル実習指導Ⅱ（3年生春学期）

児童、母子、高齢、障害、公的扶助、地域、医療領域に分かれ、法制度や施設・機関の沿革、地域特性、利用者理解、支援や援助の方法について学ぶ。また、巡回担当教員とともに実習計画書を作成し、事前訪問を行うなど具体的な実習準備を進める。



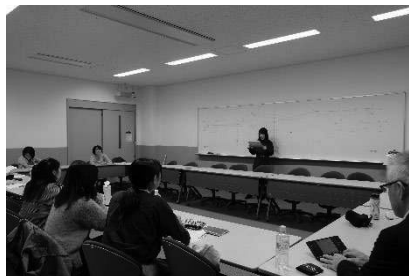
3. ソーシャルワーク実習（3年生夏休み）

2か所の施設／機関で合計240時間以上の実習体験をする。実習期間中、おおむね1週間に1度、担当教員による巡回指導、帰校指導を受け、実習の達成状況について定期的にスーパービジョンを受ける。同じ領域で実習している複数の実習生とともにグループスーパービジョンを受ける場合もある。



4. ソーシャルワーク実習指導Ⅲ（3年生秋学期）

事後学習として、巡回担当教員とともに実習のふりかえり、実習報告会、実践教育報告会の準備と報告を通して、実習経験を総括する。



精神保健福祉援助実習

【担当教員】 風間 朋子

【授業の目的】

精神保健福祉士を目指す学生を対象に、厚生労働省指定の実習施設において配属実習を行う。医療機関（精神科病院、精神科クリニック）1箇所、行政機関（精神保健福祉センター、保健所）、または障害者総合支援法における障害福祉サービス事業、相談支援事業や地域活動支援センター事業を実施する事業所で主に精神障害者が利用する機関に1箇所、あわせて2箇所で集中、又は分散形式で実習する（医療機関90時間以上を含めて総計で210時間以上、ただし社会福祉士実習の単位取得済の場合は60時間免除の150時間以上のところを本学ではトータルで180時間以上）。

医療から行政、福祉サービスまでの幅広い精神保健福祉の現場において、各機関の役割、患者・利用者の置かれている状況や生活ニーズ、他機関・地域社会との関係、精神保健福祉士の役割と連携についての実際を学び、個別支援計画などの策定を行う。更にそれらを事後学習によって熟成させていくことにより、自ら目指す精神保健福祉士のあり方や精神保健福祉が抱えている課題に対する何らかの方向性を見いだせるようになることを目標にする。

【事前学習、配属実習、事後学習の内容】

春学期には事前学習として「精神保健福祉実習指導Ⅱ」及び「精神保健福祉援助演習Ⅱ」の授業が実施される。授業内容は、各自の精神障害・精神病観、自己覚知の確認から始め、精神医学、精神科薬理学、障害者基本法・障害者総合支援法・精神保健福祉法をはじめとした各種障害者福祉法制度・精神保健福祉士法、生活保護法、国民年金法など関連する社会福祉法制度、コミュニケーション技術、アセスメント、グループワーク、コミュニティワークなどの援助技術や社会学、心理学などの関連知識であり、いずれともにピア方式で学ぶ。

以上の学習の成果を反映させて、個別に実習計画を策定する。配属実習では、配属先実習指導者によるスーパービジョン、助言を受けながら、個別支援計画策定を含めた実習計画の達成を目指してプログラムを遂行していく。実習計画は必要に応じて修正、変更を行う。

秋学期には事後学習として「精神保健福祉実習指導Ⅲ」及び「精神保健福祉援助演習Ⅲ」の授業が実施される。実習前後の授業と実習を通して精神保健福祉領域のソーシャルワーカーとして必要な価値、知識そして技術の基礎を獲得する。

配属実習終了後に、事後学習の一環として、実習計画の達成度報告（実習報告会）、振り返り、デブリーフィング、実践教育報告会、および「実習のまとめ」の作成を行う。

	春学期	秋学期
(金)Ⅳ時限	精神保健福祉実習指導Ⅱ	精神保健福祉実習指導Ⅲ
(金)Ⅴ時限	精神保健福祉援助演習Ⅱ	精神保健福祉援助演習Ⅲ

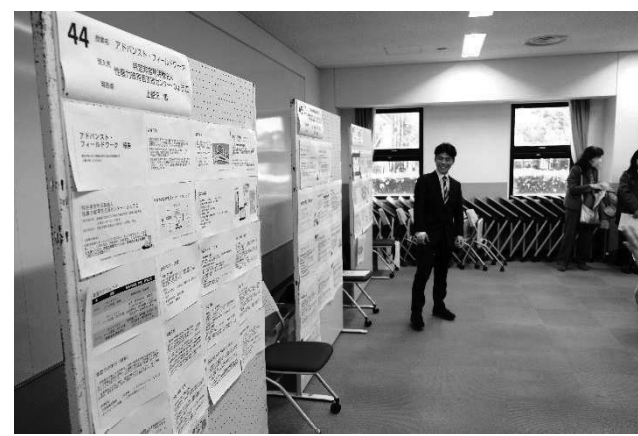
【精神保健福祉援助実習報告会】

12月13日（土）の午前に、教員、下級生を前に実習生が報告を行った。次年度実習を考えている下級生からも多くの質問があり、実習での学びの総括の場となった。



【実践教育報告会】

12月13日（土）の午後、ポスターセッション方式で実習の報告を行った。他学年や他学科の学生に対してプレゼンテーションを行い、また質問を受けることで、改めて学びを振り返ることができたことに加えて、分かりやすく説明する難しさや別の視点に気付く場となった。



【事後学習後の成果物（「実習のまとめ」）】

1年間にわたった実習（事前・配属・事後）の学びの集大成として「2025年度精神保健福祉援助実習のまとめ」の構成・編集は実習生自らが行った。

特に「実習を通して学んだ事・考えさせられたこと、実習後の私」のページや上記の実習報告会の様子もまとめ、1年間の学びの成果を形にした。

学校ソーシャルワーク実習

【担当教員】西野 緑

【授業の目的】

学校現場や関連機関での実習を通して、スクールソーシャルワーク実践に必要なとされる知識と技術を習得し、教育現場で起きている様々な問題に対応できる実践力を養うことを目的としている。特に、教職員との連携や具体的な実践方法について理解を深め、スクールソーシャルワーカーとして求められる資質や役割を学ぶ。

なお、以下の内容について、実習指導者（スクールソーシャルワーカー）による指導、教育委員会や学校の指導を受ける。また、実習指導担当教員は、巡回指導を通して、実習指導者と連絡を取り合い、学生の個別指導を行う。

【授業内容】

1. 実習の導入期
 - ア. 人間関係の構築
 - イ. 実習目的の明確化
 - ウ. 学校、教育委員会などの基本的な理解を深める。学校という場を実感する。

2. 実習の展開期
 - ア. 援助関係の形成（マイクロレベル）
 - イ. ケース会議の実際などを学ぶ（メゾレベル）
 - ウ. 関係機関を含めたチームアプローチの方法を学ぶ（メゾレベル）
 - エ. 市町村の子ども相談体制とのつながりを学ぶ（マクロレベル）

3. 実習の終結期
 - ア. 学生自身が関わりを持った事例について整理し、発表を行う。
 - イ. 実習指導者からのフィードバックをもらい、実践の自己評価を行う。

【学校ソーシャルワーク実習に関連する科目】

○学校ソーシャルワーク実習指導（担当：西野緑）

実習機関である教育現場での実習に向けて、学校や学校組織についての理解を深め、スクールソーシャルワーカーとして求められる役割を果たすための資質とスキルを習得することを目的とする。

【学校ソーシャルワーク実習報告会の様子】



【実践教育報告会の様子】



ソーシャルワーク実習指導Ⅱ

【担当教員】

安藤 幸、井岡 仁志、池埜 聡、石田 龍太、今井 小の実、岡本 みゆき、川島 恵美、
児玉 志保、小林 浩司、佐藤 寿一、高橋 昌子、高橋 爾、高橋 味央、竹森 美穂、
田嶋 香苗、中島 尚美、永峰 千鶴、西尾 怜、西田 麻由香、畠山 由佳子、林 眞帆、
原 弘輝、平井 亜里砂、平尾 昌也、廣瀬 みどり、福田 孝子、藤井 博志、前川 敦、
松岡 克尚、渡邊 健

【授業目的】

社会福祉の各種実践領域における 240 時間以上のソーシャルワーク実習について、配属される領域、施設機関、所在地域や利用者などの理解、具体的な学習内容に整理、態度や価値の取得、心身の健康の確保などについて入念な事前学習と準備を行い、配属実習の実効性を高めていくことを目的とする。尚、ソーシャルワーク演習Ⅳ（領域別実習準備学習のクラス）と内容的に関連があるため一体のものとして行う。

【到達目標】

- 1) 実習巡回担当教員との信頼関係を作る
- 2) 配属される領域、施設機関、所在地域、利用者などの理解を踏まえ、実習目的を整理し、個人票、実習計画書を作成する
- 3) 実習記録の方法を理解し、実習日誌が書けるようになる
- 4) 配属実習に求められる各種のマナー、社会的行動を理解し、実践できる
- 5) その他、配属実習に必要とされる準備を行う

【2025年度 授業内容】

回	日時	4限 ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	5限 ソーシャルワーク演習Ⅳ
1	4/10	<u>領域合同</u> ：オリエンテーション ・実習の心得 ・教員紹介 ・保健館、相談室の紹介 ・マナー講座 ・計画書の書き方	
2	4/17	<u>領域合同</u> 記録（実習日誌）の書き方	
3	4/24	<u>A実習・領域別</u> A実習の事前学習	クラスオリエンテーション クラス別授業（1）
4	5/1	<u>A実習・領域別</u> A実習計画書添削・仕上げ 個人票確認	クラス別授業（2）
5	5/8	<u>領域合同</u> A実習 kick off	クラス別授業（3）
6	5/15	巡回教員個別指導（1） 実習計画書	クラス別授業（4）
7	5/22	巡回教員個別指導（2） 実習計画書	クラス別授業（5）
8	5/29	巡回教員個別指導（3） 実習計画書	クラス別授業（6）
9	6/5	巡回教員個別指導（4） 実習計画書	クラス別授業（7）
10	6/12	巡回教員個別指導（5） 実習計画書	クラス別授業（8）
11	6/19	巡回教員個別指導（6） 実習計画書	クラス別授業（9）
12	6/26	<u>領域合同</u> A実習ふりかえり・B実習への接続	クラス別授業（10）
13	7/3	予備日	クラス別授業（11）
14	7/10	<u>領域合同</u> ：Kick off	

ソーシャルワーク演習Ⅳ

【担当教員】 下表参照

【授業目的】

現場実習に向けて、基礎的な知識や技術を習得することを基本として、さらに実践的な姿勢・考え方を演習というスタイルで学んでいくことを目的とする。実習指導Ⅱと関連性・つながりをもって、学びを深めていく。

【到達目標】

本演習は実習配属先の「領域別に分けたクラス構成」により、それぞれの現場に特化した内容で、実習を充実したものとするために事前準備としての演習を行う。

1. ソーシャルワーク実習の意義を理解する。
2. 各領域における必要な技術・知識を習得する。
3. 福祉に関する総合的かつ包括的な「相談援助職としての自覚」を促し、「専門職として求められる資質、技能、倫理」を身につける。
4. 実習を通じて「自分に求められる課題」を把握し、総合的に対応できる能力を身につける。
5. 演習における事例検討から、実践的な対応力・判断力、さらに包括的・全体的な視点を学び、身につける。

領域	担当教員	授業目的・目標	授業内容
児童領域	高橋 味央	<ul style="list-style-type: none">○ ソーシャルワーク実習の目的と意義を理解する○ 実習先の機関・施設について、その機能と役割を学ぶ○ 児童領域の現場実習に必要とされる知識・技術を体得する○ 児童領域の現場実習に特化したマナーやソーシャルスキル等を学ぶ○ 実習の心構えや積極的な学習姿勢を養う	<ul style="list-style-type: none">● 児童領域(児童相談所、児童福祉施設等)の概要● 児童領域のソーシャルワークの実際● 子どもと家庭への支援(児童虐待、愛着理論、発達理論、多職種連携とネットワークについて)● 事例検討● 自立支援計画書の書き方● 実習計画書についてのプレゼンテーション

医療領域	藤田 譲	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保健医療サービスへの理解を深め、実習施設の機能・特徴を説明できる ○ ソーシャルワーク実践において必要な知識・スキルについて説明できる ○ 保健医療領域におけるソーシャルワーク実践の特徴と課題を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 医療の仕組みと実習施設の理解 ● 保健医療領域のソーシャルワークの特徴 ● ソーシャルワーク実践に必要な知識とスキル ● 医療ソーシャルワークの実際(支援の展開、多職種連携、患者の心理) ● 保健医療領域における倫理的課題とソーシャルワークの価値
母子領域	中島 尚美	<ul style="list-style-type: none"> ○ ソーシャルワーク実習の意義を理解する ○ 社会福祉専門職としての価値・倫理・態度を学ぶ ○ 主体的な学習行動と積極性を養う ○ 実習を通じて「自分に求められる課題」を把握し、総合的に対応できる能力を身につける ○ 母子領域における支援に必要な知識・技術を具体的かつ实际的に理解し体得する ○ 利用者理解の視点を養う ○ こどもの育ちと権利について学ぶ ○ 情報の捉え方とアセスメント力をつける 	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会的養育の概念と社会的養護の法体系、ひとり親施策の概要理解 ● 母子生活支援施設における支援の理解 ● 支援に必要な基礎知識の理解と課題の抽出 ● 生活の視点を活かした実習先施設の下見及び地域探索のレポート作成と発表 ● 子どもの育ちの理解 ● アセスメントにおける利用者理解とストレングスの視点の解説とワークシート作成 ● ケーススタディ
高齢領域 (包括)	渡邊 健	<ul style="list-style-type: none"> ○ ソーシャルワーク実習の意義を理解する ○ 実習において必要な技術・知識を習得する ○ 福祉に関する総合的かつ包括的な「相談援助職としての自覚」を促し、「専門職として求められる資質、技能、倫理」を身につける ○ 実習を通じて「自分に求められる課題」を把握し、総合的に対応できる能力を身につける 	<ul style="list-style-type: none"> ● 介護保険制度：全体像、地域包括支援センター ● 高齢者の理解 認知症について ● 高齢者を取り巻く環境の理解：家族、近隣、地域 ● 総合相談支援：相談の受理～面接～援助関係の構築 ● 介護予防マネジメント ● ケアマネジメント支援：地域における連携、協働の体制づくり ● 権利擁護と成年後見制度 ● 機関見学・実践紹介と実習生に求める視点
障害領域	前川 敦	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実習に必要なとされる価値・倫理・態度を学ぶ ○ 感性を磨き、相手の状況に応じたコミュニケーションをはかる ○ 障害を社会的側面からとらえる ○ ライフステージをふまえて利用者のニーズをとらえることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 障害領域オリエンテーション ● コミュニケーションワーク ● 障害児療育・家族支援 ● 自立支援 ● 地域生活支援 ● 就労支援 ● 権利擁護と意思決定支援 ● 強度行動障害・医療ケア支援 ● 合理的配慮とソーシャルインクルージョン ● 老年期支援

公的扶助 領域	前嶋 弘	<ul style="list-style-type: none"> ○ ソーシャルワーク実習の意義について理解する ○ ソーシャルワークの「原則」「知識」「技術」について、実際的に理解する ○ 「地域共生社会」の実現に向けて社会福祉士に求められることを踏まえ、自分自身の課題を把握し、これを実践できる力を獲得する ○ 社会福祉に関する実際の体験や活動を、理論やモデルを用いて理解し説明できるようになる ○ 公的扶助領域の施策、事業、組織、行財政に関する現状と課題を理解する ○ 自分自身の実習テーマを見出し、それを織り込んだ実習計画書を作成する ○ 実習先で求められるマナーや配慮を理解し適切な振舞いができるようになる 	<ul style="list-style-type: none"> ● ソーシャルワーク実習の意義と進め方の理解 ● 地域共生社会の実現に向けた社会福祉士の役割の理解 ● 実習分野とクライアント、関係機関、団体、地域社会等に関する基礎的理解 ● ソーシャルワーク実習で必要になる知識や技術の理解 ● 地域の概要と福祉事務所の組織や業務に関する調査・発表 ● 現場体験学習や見学 ● プライバシーの保護と守秘義務等の理解 ● 「実習日誌」の内容と記録方法に関する理解 ● 実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との協議を踏まえた実習計画の作成 ● ゲストスピーカーによる講義 ● 実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成
地域福祉 領域	井岡 仁志	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実習にあたっての基本的な姿勢と技術、記録の書き方等の技術を養う ○ 地域福祉と関連福祉制度、社会の動向について理解する。 ○ 社会福祉協議会の歴史・個別支援・地域福祉活動に関する知識を養う ○ 地域の固有性に根差した実習計画書作成を行う ○ 地域福祉実践で起こる課題に対して、学習した知識・技術との関連を認識できるようになる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 実習に対する動機づけ ● 個人票・実習計画書の書き方 ● 地域福祉政策動向と地域福祉に関連する制度の理解 ● 地域福祉計画と地域福祉活動計画・事業計画 ● 社会福祉協議会がおこなう実践について ● コミュニティワーク (CoW) とコミュニティソーシャルワーク (CSW) ● コーディネーションとネットワーキング ● 実習計画発表 ● フィールドワーク発表 ● 事例検討

ソーシャルワーク実習指導Ⅲ

【担当教員】

安藤 幸、井岡 仁志、池埜 聡、石田 龍太、今井 小の実、岡本 みゆき、川島 恵美、
児玉 志保、小林 浩司、佐藤 寿一、高橋 昌子、高橋 爾、高橋 味央、竹森 美穂、
田嶋 香苗、中島 尚美、永峰 千鶴、西尾 怜、西田 麻由香、畠山 由佳子、林 眞帆、
原 弘輝、平井 亜里砂、平尾 昌也、廣瀬 みどり、福田 孝子、藤井 博志、前川 敦、
松岡 克尚、渡邊 健

【授業内容】

ソーシャルワーク実習（配属実習）において体験した内容のふりかえり、整理とまとめを通して、社会福祉の専門的援助技術としての概念化、理論化、体系化ができる能力を養うことを目的とする。授業では、①実習振り返り、②実習レポート作成、③次年度履修予定学生に向けたソーシャルワーク実習報告会、④領域別報告会、⑤実践教育報告会でのポスター発表を実施した。以下は、その主な概要である。

【実習振り返り】

実習振り返りでは、①実習アンケートや評価票を通じての自己評価を行う事、②実習中のモチベーションを図るシートの作成を行う事、以上2点を通じて、実習レポートの作成およびソーシャルワーク実習報告会や領域別報告会で報告するための整理を行った。また、報告会に向けてのプレゼンテーション指導も実施した。

【ソーシャルワーク実習報告会】 日時：2025年11月8日（土） 場所：G号館各教室

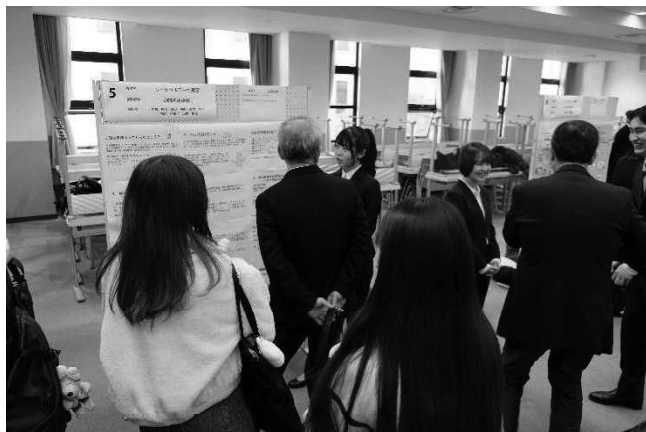
ソーシャルワーク実習報告会は、次年度ソーシャルワーク実習履修を希望している学生に対して、実習生自身の具体的な実習体験を報告する場である。実習を終えた学生にとっては、フィードバックの機会となり、次年度履修予定の学生にとっては、関心のある領域を選択し、学習意欲を高めるためのステップであるといえる。

また、報告会終了後は、実習生と次年度履修予定学生との懇談会も実施した。



【実践教育報告会】 日時：2025年12月13日（土）場所：G号館各教室

実践教育報告会は、社会福祉学科、社会起業学科、人間科学学科の3学科の学生が合同でそれぞれの実践教育を報告する場、また学びの交流の場として開催している。2018年度よりSW実習履修生も実践教育報告会に参加し、領域毎にポスター発表を行った。



ソーシャルワーク演習Ⅴ

【担当教員】川島 恵美、児玉 志保、竹森 美穂、平尾 昌也

【授業目的】

本演習の目的は、ソーシャルワーク実習で学んだ具体的な体験の内容を持ち寄り、ジェネラリスト・ソーシャルワーク（ソーシャルワークの基礎基盤）の視点と意義を学ぶことを目的とする。実習を終えた各領域の学生で構成される演習クラスで、各自が体験を通して考察すべき実習の内容・課題・疑問点を報告・共有し、さらに、ある領域の事例を各領域の観点から再検討するプロセスを通じて、ジェネラリスト・ソーシャルワークの本質を探究する。

学びを深めるための留意点としては、①メゾ・マクロ視点（地域社会・施設機関・法人・法制度の存在と役割に焦点をあてる等）とミクロの視点（対人援助・人間理解に必要とされる価値と倫理・知識・技術に焦点をあてる等）に注視すること、②現場実習での実体験に基づく学びを捉えなおし、ソーシャルワーク実践を広く・深く考察すること、③クラスでの報告をするにあたり、現場実習・実践の情報を十分に再収集（アセスメント）・再確認し、現実的視点から再検討するという3点を重要視する。

【授業内容】

- ジェネラリスト・ソーシャルワークとは
- 総合的かつ包括的なソーシャルワーク実践とは
- 現場実習事例の活用と検討
- ソーシャルワーク実習体験のふりかえりと総括
- 在留外国人の課題について

【学びの方法】

- 概念を理解する学習
- 体験を振り返る学習
- グループワーク学習

【スケジュール】（抜粋）

- 第1回：合同オリエンテーション、全体講義「ジェネラリストソーシャルワークとは何か」ワークシート1記入
- 第2回：演習クラスオリエンテーション、ワークシート2記入

- 第3回～第9回：クラス毎に、実習体験に基づく報告及びディスカッション等の演習
- 第10回：グループワーク「在日外国人支援を考える」1
映像視聴「サイレントプア」 ゲスト：李 善恵先生「在留資格とは」
- 第11回：グループワーク「在日外国人支援を考える」2
ゲストスピーチ 在日外国人の支援の現状と課題
スピーカー：村西 優季さん（NGO 神戸外国人救援ネット）
- 第12回～13回：グループワーク「在日外国人支援を考える」3・4
在日外国人のもつニーズや課題に対応するプログラムを考える
グループワークプレゼンテーションの準備
- 第14回：グループワーク「在日外国人支援を考える」5
グループ毎のプレゼンテーション
まとめと振り返り

ソーシャルワーク論 B

【担当教員】 平尾 昌也、竹森 美穂

【授業内容】

社会福祉を学び始める学生（1年生）が、社会福祉に関する分野・職種、専門職・資格、援助・実践など、社会福祉に関する基礎的内容と実際を広く学び、その後（2年生以降）の専門的な理論と実践の学びにつながる導入教育を講義目的とする。専門職であるゲスト講師から、施設・組織の運営管理の実際、専門職の業務・実践の実際、利用者や家族の生活とニーズなどを具体的に学ぶことで、社会福祉・ソーシャルワークについてより現実的・具体的に理解できるようになることを目標とする。今年度は、11名のゲストスピーカーにご講義いただき、講義とその後の質疑応答、コメントペーパーの提出を通して、社会福祉の実践現場に関する多角的な視点を身につける一助となったと考える。

【2025年度スケジュール】

回	月 日	内容及びゲスト	分野・領域 ・キーワード
1	4月8日	オリエンテーション（講義概要・受講施設・評価方法）、SW論Bの学習スタイル、社会福祉の専門職・専門性、社会福祉分野の紹介、社会福祉の資格、仕事・現場の実際	
2	4月15日	株式会社 YEVIS 代表取締役 若松 周平氏	障がい児者福祉
3	4月22日	NPO 法人こどもソーシャルワークセンター 理事長 幸重 忠孝氏	子ども・若者支援 SSW (NPO)
4	4月29日	社会福祉法人 海の子学園 池島寮 北村 春香氏	児童福祉、社会的 養護（児童養護施設）
5	5月13日	医療法人協和会 協和会病院 地域医療福祉連携室 才田 利恵氏	MSW（医療ソーシャルワーク）
6	5月20日	リアン東さくら 少年指導員 杉野 夏菜子氏	母子生活支援
7	5月27日	宝塚市子ども未来部 たからっ子総合相談センター 家庭児童相談課 丸谷 美紀氏	子ども家庭福祉 （行政）
8	6月3日	中間ふりかえり	中間総括・参加型

9	6月10日	社会福祉法人 池田市社会福祉協議会 茂籠 知美氏	地域福祉（社会福祉協議会）
10	6月17日	NPO法人大阪ダルク ディレクター 倉田 めば氏	精神保健福祉 薬物依存
11	6月24日	明石市社会福祉協議会 明石市後見支援センター センター長 水口 貴仁氏	権利擁護 司法福祉
12	7月1日	社会福祉法人神戸福生会 御蔵あんしんすこやかセンター 管理者 大山 佳伸氏	高齢者福祉 認知症理解
13	7月8日	尼崎市役所 健康福祉局福祉部 重層的支援推進担当係長 宮本 晃子氏	福祉行政 （公務員福祉職）
14	7月15日	全体ふりかえり・総括	全体総括 参加型

ソーシャルワーク論F

【担当教員】 竹森 美穂、平尾 昌也

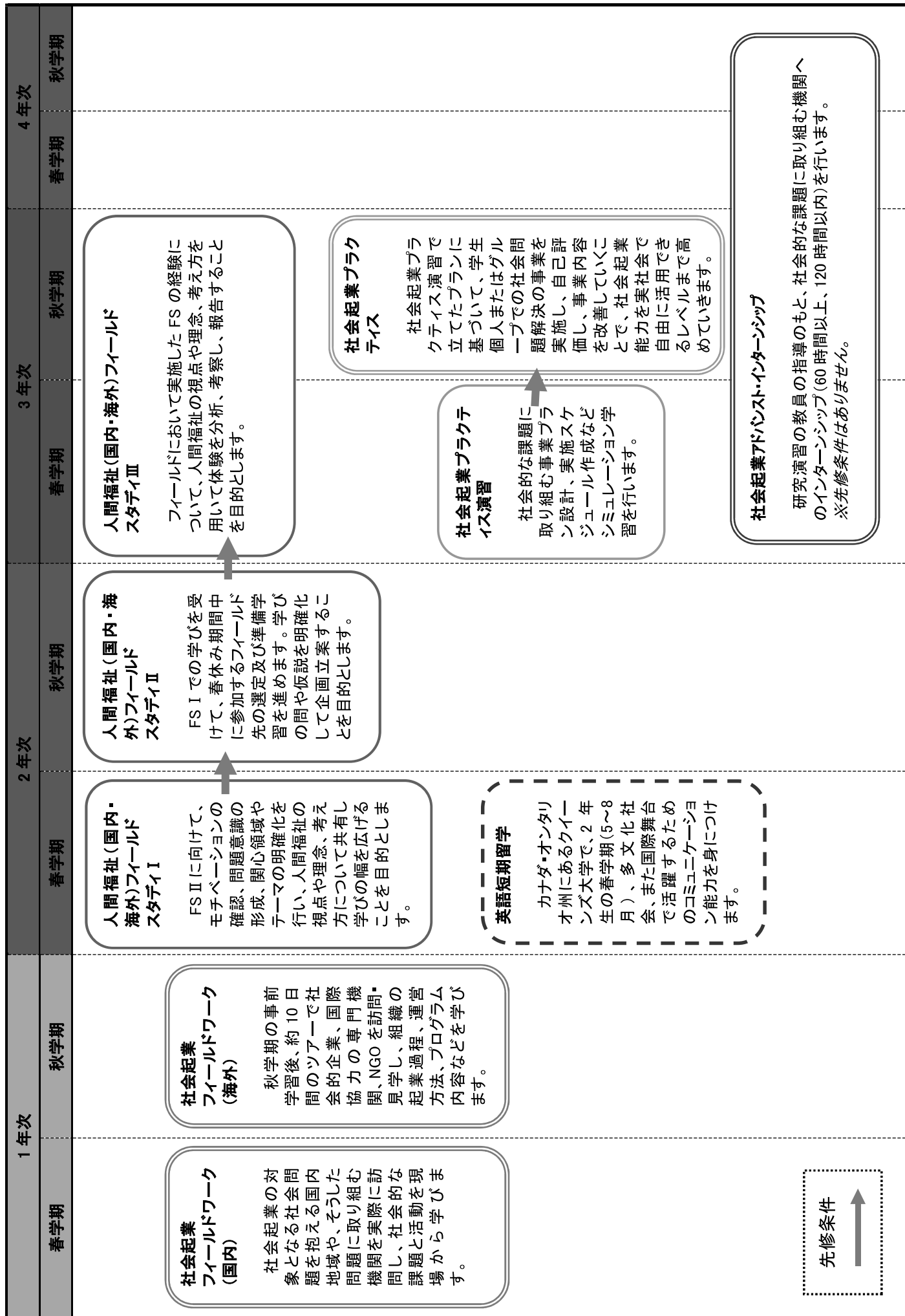
【授業内容】

ソーシャルワーク実習を終了した者を主な対象にして、社会福祉及び保健・医療機関の機関機能、それぞれの利用者の支援内容、それと関連した社会資源活用・調整・開発、および連携・ネットワークングを取り上げて、事例分析を行う。これらを通してソーシャルワーク実習で得られた知識の再確認と一層深めることを目的とする。具体的には社会福祉各法・関係法に基づく社会福祉施設・機関、保健・医療機関等の各領域から実践経験のある講師をお招きし、各2回、それぞれの実践現場における相談援助・支援の実際について取り上げ、その事例分析を行う。本年度も6名の講師にお越しいただき、事例をとらえる視点や考え方についてグループワークなどをまじえて学びを深める機会となった。

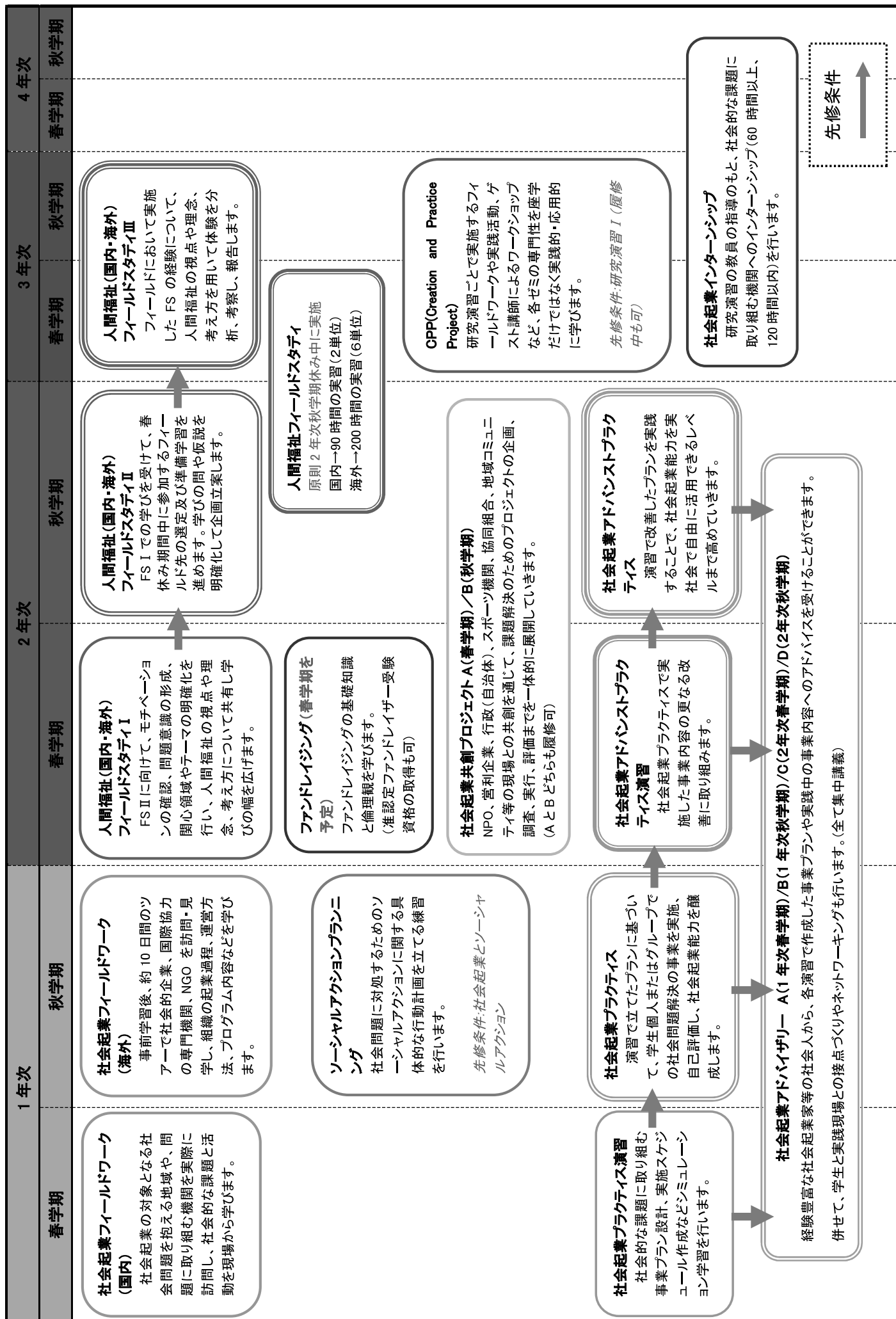
【2025年度スケジュール】

回	月 日	領 域	指導担当
1	9月24日	オリエンテーション	竹森 美穂、平尾 昌也
2	10月1日	児童福祉領域	宝塚市家庭児童相談課
3	10月8日		丸谷 美紀
4	10月15日	障害者福祉領域	地域活動支援センターヨハネ
5	10月22日		地域活動支援センター長田 山下 雅夫氏
6	10月29日	精神障害者領域	寝屋川市民たすけあいの会
7	11月5日		山野 仁美
8	11月12日	公的福祉領域	大阪市淀川区役所
9	11月19日		梶原 秀晃
10	11月26日	高齢者福祉領域	かどソーシャルワーク事務所
11	12月3日		加戸 陽子
12	12月10日	医療福祉領域	神戸百年記念病院
13	12月17日		一杉 浩史
14	1月7日	全体ふりかえり・総括	竹森 美穂、平尾 昌也

＜社会起業学科＞ ※2020年度入学生より対象 「実践教育プログラムの流れ」



社会起業学科の実践教育プログラムの流れ ※2025年度入学生より対象



社会起業フィールドワーク（国内）

【担当教員】 白波瀬 達也、頼政 良太

【授業の目的】

この授業の目的は、次の2点である。1点目は、国内で問題となっている多様な社会的課題の実情と向き合い、課題に直面している当事者や課題解決に取り組んでいる団体・人々から社会や生活、地域の現実を積極的に学び取ることを通じて視野を広げ、問題意識を深めることである。2点目は、社会起業に関する基本的な知識や価値観などを習得して、さらに専門的な科目の履修へ向けた心構えをすることである。

【授業の内容】

1. 事前調査

団体の設立経緯や組織、活動の内容をはじめ、その団体に取り組む社会的課題やその課題が生まれる背景、その団体以外にも同じような社会的課題にどのような取り組みがなされているのかなどについてグループごとに調査した。

2. 現地調査

事前調査内容にもとづき、下記団体の事務所およびフィールドを実際に訪問し取材を行った。

3. 事後学習

訪問後、各グループでスライドを作成しプレゼンテーションを実施し、授業内で報告した。

<フィールドワーク先>

【白波瀬クラス】

訪問日	訪問先	テーマ・課題
6月14日	ゆ〜とあい 西成隣保館	まちづくり
6月21日	IKUNO 多文化ふらっと	多文化共生

【頼政クラス】

訪問日	訪問先	テーマ・課題
5月31日	大阪ボランティア協会	中間支援
6月7日	まなびと	子ども支援、外国人支援
6月7日	CODE 海外災害援助市民センター	災害支援、国際協力

社会起業フィールドワーク（海外）

【担当教員】 武田 丈

【授業の目的】

フィリピンで未だに残る社会的な課題とその課題に対するさまざまな分野の取り組み（含 ソーシャルビジネス）などについて学ぶことを目的とする。今年度は17名が履修し、実際に現地を訪れることで、独裁政権、貧富の格差、海外出稼ぎ奨励国家政策などに起因するさまざまな問題について学ぶと共に、女性の活躍、社会起業、市民のパワーを体感した。

●事前・事後授業

2025年11月15日（土） 事前授業1回目	9:30-12:30	1. オリエンテーション（プログラム説明、自己紹介など） 2. フィリピンについての調査グループ分け（①歴史、②経済・出稼ぎ政策、③文化、④教育） 課題：テーマについて調べてまとめ、現地活動の第2回に向けてパワポの準備を行う。
2025年12月14日（土） 事前授業2回目	9:30-12:30	1. 課題発表 2. 現地での活動計画（各訪問機関の担当グループ分け） 課題：各機関紹介パワポおよび現地での調査項目の準備（英語使用）。
2026年1月14日（土） 事前学習3回目	9:30-12:30	1. 海外旅行保険説明等 2. 現地での活動計画発表
2026年2月18日（水） 事後授業	13:20-16:20	現地学習活動の成果と活動の振り返りに関する発表

●渡航プログラム

日付	Activity
1月31日	関空→マニラ
2月1日	午前：Farmer's Market 見学/ 午後：FW オリエンテーション&Maligaya House とバティス女性センター訪問 夕方：ウェルカムディナー@Maligaya House
2月2日	10:00-14:00 ICAN パヤタスツアー
2月2日	午前：スラム地区の幼稚園・学童保育聖心の家幼稚園 (Tahanan ng Mahal na Puso) 訪問 午後：ソーシャルビジネス HABI Lifestyle 訪問
2月4日	午前：カンルンガン・サ・エルマ訪問 午後：JICA フィリピンオフィス訪問 夕方：Bambike Intramuros Sunset Tour 参加
2月5日	午前：カンルンガン・ボーイズホーム&コーヒー農園訪問 午後：タガイタイ観光
2月6日	午前：フィリピン大学女性&ジェンダーセンター訪問 夕方：フィールドワークの振り返り
2月7日	マニラ→関空

社会起業プラクティス

【担当教員】 頼政 良太、田村 幸大、川中 大輔

【授業の目的】

「社会起業プラクティス演習」で作成したプランにもとづき、以下を授業の目的とした。受講者は、主体的につくったチームで、社会起業プランをもとに実際にフィールドへ出て活動し、その活動の成果を測定することである。修了時点には、受講者が、社会起業の実践に必要な能力や考え方を習得していることを目標とした。

【授業内容】

*実施状況に応じて個別対応

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 社会起業アイデアの共有
- 第3～5回 社会起業プランの作成・報告
- 第6～8回 実践の準備
- 第9～12回 社会起業プランの実践
- 第13回 実践のフィードバック、実践報告のブラッシュアップ
- 第14回 授業のまとめ

【今年度計画されたプラン】

プラン名
RE:PIAY 遊びを再定義する。
関係人口創出プロジェクト：学生×地域「芳田 midnight 交流会」の挑戦
食べる社会貢献「TFT」の導入
芳田地区における多世代交流の創出と、 今後の活動継承に向けたコミュニティの構築
見えない壁「正規・非正規の格差」
わくわくパーティー
Bias Free プロジェクト
多世代交流！みんなですごろくバトル！
TUNE.
多様性を乗り越える 違いが力になる日
イロドリ～過疎地の不登校児の思い出をイロドリで満たす～
Tugu-Nagu commit
Left for you～伝えるために走る～
未来のまちづくりカフェ

社会起業アドバンスト・インターンシップ

【担当教員】 孫 良、森藤 ちひろ、石田 祐、柴田 学、武田 丈

【授業目的】

この授業は、学生自身がこれまでの大学生活の中で学んで来たこと、現場で経験してきたことを踏まえて、様々なフィールドでインターンシップを行うことで、現場における実践経験と大学の講義等を通して得た学びを深めていくことを目的とした科目である。

NPO や NGO、社会的企業、地域活動団体などにおけるインターンシップを通して、自分自身が立てた研究テーマを追求することが目標となる。

今年度は 15 名の学生が履修し、アドバンスト・インターンシップを行った。

【授業内容】

春学期

- ・インターンシップに向けた事前学習
- ・インターンシップ計画書作成
- ・事前訪問とインターンシップ内容の相談

夏期休暇期間等

- ・インターンシップ実践 (*インターンシップ先については巻末参照)
- ・教員によるスーパービジョン

秋学期

- ・インターンシップ報告と振り返り
- ・実践教育報告会での報告(ポスターセッション)

＜人間科学＞ 実験実習・フィールドワークに関するカリキュラム

1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
春学期	春学期	春学期	春学期	
秋学期	秋学期	秋学期	秋学期	
<p>人間科学実習入門</p> <p>人間科学の基本を理解することを目的とした人間科学入門の実践科目である。人間科学で扱う実践場面を想定し、演習(学内)および実習形式(1泊2日の学外合宿)により授業を行います。また、人間の誕生から死までのライフサイクルにおいて、ころと身体がどのように変化するのか、またその関係の重要性や課題・課題解決の技について、実践を通して学ぶことを目的としています。</p>	<p>人間福祉(国内・海外)フィールドスタディ I</p> <p>FS II に向けて、モチベーションの確認、問題意識の形成、関心領域やテーマの明確化を行い、人間福祉の視点や理念、考え方について共有することを目的とします。</p>	<p>人間福祉(国内・海外)フィールドスタディ II</p> <p>FS I での学びを受けて、春休み期間中に参加するフィールド先の選定及び準備学習を進める。学びの間や仮説を明確化して企画立案することを目的とします。</p>	<p>人間福祉(国内・海外)フィールドスタディ III</p> <p>フィールドにおいて実施した FS の経験について、人間福祉の視点や理念、考え方を用いて体験を分析、考察し、報告することを目的とします。</p>	
	<p>野外教育実習 A</p> <p>毎週の演習とともに、学外での野外実習を通して、組織キヤンプとして展開される各担当の役割を理解するとともに、グループ単位で展開される活動への支援を、ハードスキルとソフトスキルの両面から習得することを目指す。また、体験学習サイクルによって展開されるキャンプでの様々な活動を実際に体験しながら、その効果と指導法を学びます。</p>	<p>野外教育実習 B (集中講義)</p> <p>冬季アウトドア(スキー・スノーボード)スポーツを通して、大自然の厳冬期における身体運動技術と傷害防止技術の獲得を目指します。生涯にわたるクリエイション活動のツールとして役立つスポーツの技術修得やスノースポーツを通して、スポーツ科学や健康科学について学ぶことを目的と、さらに宿泊授業の特徴である集団生活から人間関係をモラルへの理解を深めることも、目的としています。</p>	<p>運動生理学実験実習</p> <p>※講義科目「運動生理学」または「スポーツバイオメカニクス」の単位修得が先修条件です。(履修中も可)</p>	<p>スポーツバイオメカニクス実験実習</p> <p>※講義科目「スポーツバイオメカニクス」の単位修得が先修条件です。(履修中も可)</p>
		<p>野外教育実習 I</p> <p>※講義科目「野外教育論」、実習科目「野外教育実習 A」または「野外教育実習 B」の単位修得が先修条件です。</p>	<p>野外教育指導実習 II</p> <p>※実習科目「野外教育指導実習 I」の単位修得が先修条件です。</p>	
			<p>人間科学フィールドワーク ※3年、または4年次に履修可能</p> <p>全体としての人間について、これまで座学を中心とすると身体の両面から学んできたことを、実際の現場での実習を通して実践的に理解し、深い人間理解をもとに人に関わり支援できる人材を育成することを目的としています。生身の人間との関わりによって、それぞれのライフコースにおける課題や困難に人々はどのように向き合い、生きているのか、ころ・身体両面においてどのような支援ができるのかを学ぶとともに、自らの価値観を問い直し、自己への洞察を深めることが学習の目的です。</p>	

先修条件 ↑

人間科学実習入門

【担当教員】

相川 聖、市瀬 晶子、甲斐 知彦、河鱒 一彦、坂口 幸弘、桜井 智恵子、佐藤 博信、橋本 直子、藤井 美和、溝畑 潤、嶺重 淑、山 泰幸、石川 芽生子、廣田 音奏

【授業目的】

本科目は、人間の誕生から死までのライフサイクルにおける、こころと身体の変化に対して様々な課題を解決する技能を学び、人間存在の意味について考えることを目的とする。合宿プログラムと演習形式での授業を通して、以下2点を授業の目標として設定している。

- ①こころと身体の変化について、さまざまなアプローチから理解を深める
- ②人の存在意義や人と共に生きることについて考え、理解して行動できる

【授業スケジュール】

■合宿プログラム

日付	テーマおよび内容
10月18日(土) 10月19日(日)	合宿プログラム ウォークラリー、野外炊事(カレー)、カウンスルフアイア カートンドッグ、チャペル、清掃、教員による講義

■演習授業(10月～11月にクラスごとに分かれて実施)

	日時	講義内容
第1回	9/25	合宿オリエンテーション
第2回	10/2	合同クラス演習
第3回	10/9	クラス演習
第4回	10/16	クラス演習
第5回	10/23	合同クラス演習、先輩(卒業生)ゲストから学ぶ
第6回	10/30	クラス演習
第7回	11/6	演習での学びのまとめ(最終レポートの作成)

運動生理学実験実習

【担当教員】河鱒 一彦

【授業目的】

運動生理学で学んだ知見を実際に現場で活用できるように実験方法習得を目的とする。運動生理学に関する各種、測定法・解析法の技術取得が到達目標である。

【授業内容】

第1回	オリエンテーション
第2回	写真技術1
第3回	写真技術2
第4回	動画技術1
第5回	動画技術2
第6回	動作解析1
第7回	動作解析2
第8回	動作解析3 3次元分析
第9回	モーションキャプチャー1
第10回	モーションキャプチャー2
第11回	生体強度1
第12回	生体強度2
第13回	総合実験1
第14回	まとめ

スポーツバイオメカニクス実験実習

【担当教員】河鱒 一彦

【授業目的】

スポーツバイオメカニクスで学んだ知見を実際に現場で活用できるように実験方法習得を目的とする。動作解析・生体強度の測定法、解析法の技術取得が到達目標である。

【授業内容】

第1回	オリエンテーション
第2回	写真技術1
第3回	写真技術2
第4回	動画技術1
第5回	動画技術2
第6回	動作解析1
第7回	動作解析2
第8回	動作解析3 3次元分析
第9回	モーションキャプチャー1
第10回	モーションキャプチャー2
第11回	生体強度1
第12回	生体強度2
第13回	総合実験1
第14回	まとめ

野外教育実習 A

【担当教員】 甲斐知彦

【授業内容】

本演習では、実際に野外に出かけ、実習を通して、野外教育現場での指導者としての理論と技術を学んだ。また、到達目標としては、組織キャンプとして展開される際のグループ活動への支援をハードスキルとソフトスキルの両面から習得することとした。なお、本授業の単位と野外教育論の単位を取得することで日本キャンプ協会公認キャンプインストラクターの取得が可能である。

【授業スケジュール】

第1回 オリエンテーション

第2回 ASE(Action Socialization Experience)コミュニケーションを中心に

第3回 ASE(Action Socialization Experience)トラストを中心に

第4回～第13回 (集中実習 5月9日(金)夕刻～5月11日(日)夕刻)

第5回 野外炊事①

第6回 野外炊事②

第7回 ディスカバリーウォーク (登山の基本的な技術習得)

第8回 テント設営実習・ロープワーク

第9回 野外炊事③

第10回 ナイトプログラムの体験 (カウンスルフアイヤー)

第11回 テント泊

第12回 ハートプログラム (エレメントを用いて)

第13回 体験学習サイクルを用いた振り返り

第14回 実習の振り返り



人間福祉国内フィールドスタディ I

【担当教員】 柴田 学、橋本 直子、平尾 昌也、森藤 ちひろ、李 善恵

【授業目的】

この授業の目的は、秋学期の人間福祉国内フィールドスタディⅡ、春休み期間の人間福祉国内フィールドスタディ(90時間)、3年時の人間福祉国内フィールドスタディⅢに向けた事前学習を行うことである。

人間福祉国内フィールドスタディでは、国内の様々な社会課題に取り組むフィールド(社会的企業、NPO、NGO、福祉機関、市民団体、ボランティア団体など)において、参加・体験型の学習を行う。フィールドスタディⅠでは、フィールドに対する学生の問題意識の形成を行うために、多様な領域における取り組み状況をゲストスピーカーの講義から学ぶ。さらに、学生同士の討論や意見交換を通して、各人の問題意識や関心領域を明確化する。今年度は32名の学生が履修して、フィールドスタディ(国内)に向けた事前学習に取り組んだ。

【授業内容】

回	日時	内容
1	4月14日	【国内・海外合同】オリエンテーション 国内フィールドスタディと海外フィールドスタディについて
2	4月21日	【国内・海外合同】 フィールドスタディとは何か?
3	4月28日	国内フィールドスタディ 初回オリエンテーション:アイスブレイク
4	5月12日	領域別ゲストスピーカーとグループワーク(1)まちづくり NPO法人暮らしづくりネットワーク北芝 丸岡 朋樹氏
5	5月19日	領域別ゲストスピーカーとグループワーク(2)地域・子ども 公益社団法人神戸YMCA 西宮YMCA 谷川 尚氏、橋本 唯氏
6	5月26日	領域別ゲストスピーカーとグループワーク(3)貧困・ホームレス支援 認定NPO法人Homedoor 相談部門長 永井 悠大氏
7	6月2日	領域別ゲストスピーカーとグループワーク(4)在日・滞日外国人支援 NPO法人 NGO 神戸外国人救援ネット事務局 村西 優季氏
8	6月9日	領域別ゲストスピーカーとグループワーク(5)依存症回復支援 NPO法人いちごの会 リカバリハウスいちご尼崎 武輪 真吾氏、当事者の方
9	6月16日	領域別ゲストスピーカーとグループワーク(6)LGBTQ+と理解者支援 NPO法人MixRainbow 代表 いやた みのり氏
10	6月23日	領域別学習後の振り返りワークⅠ
11	6月30日	先輩学生からの報告とグループワーク
12	7月7日	領域別学習後の振り返りワークⅡ 国内フィールドスタディⅡ・Ⅲの参加意向調査
13	7月14日	調査票に基づく配属希望面談
14	7月21日	まとめ・全体ふりかえり(グループワーク)

人間福祉国内フィールドスタディⅡ

【担当教員】柴田 学、橋本 直子、森藤 ちひろ、李 善恵

【授業目的】

この授業の目的は、3年次の人間福祉国内フィールドスタディに向けた事前学習を行うことである。人間福祉国内フィールドスタディでは、国内の様々な社会課題に取り組むフィールド（社会的企業、NPO、NGO、福祉機関、市民団体、ボランティア団体など）において、参加体験型の学習を行う。人間福祉国内フィールドスタディⅡでは、人間福祉フィールドスタディに関する基礎的な理解を深めるとともに、希望分野に関する概括的なリサーチを行い、フィールドスタディの希望先の選択を行う。そして、希望先のフィールドにおけるフィールドスタディの内容を企画し、学生間で計画内容の報告や共有を行う。学生同士の意見交換を行い、フィールドスタディの計画書を完成させて、実施準備を行う。

今年度は21名の学生が履修した。

【授業内容】

回	日時	内容
1	9月22日	オリエンテーション（全体）・グループ相談（各クラス）
2	9月29日	フィールドスタディとは？（1） ：課題文献1）「フィールドワークとは何か」
3	10月6日	フィールドスタディとは？（2） ：課題文献2）「フィールドワークにおける問いを立てる」
4	10月13日	希望先の領域学習・発表準備（1）
5	10月20日	希望先の領域学習・発表準備（2）
6	10月27日	合同・グループ別発表
7	11月3日	フィールドスタディ個人票・計画書の作成・説明
8	11月10日	フィールドスタディガイダンス&マナー
9	11月17日	フィールドスタディ日誌の書き方 ：課題文献3）「現場における記録・フィールドノート」
10	11月24日	フィールドスタディ計画書発表（1）
11	12月1日	フィールドスタディ計画書発表（2）
12	12月13日	実践教育報告会への参加
13	12月15日	フィールドスタディ計画書 全体発表（ワールドカフェ形式）
14	12月22日	まとめ ～休暇中のフィールドスタディ実施に向けて～

※10月13日、10月20日、11月24日、12月1日の授業はクラス別に実施。

人間福祉国内フィールドスタディⅢ

【担当教員】市瀬 晶子、森藤 ちひろ、李 善恵

【授業目的】

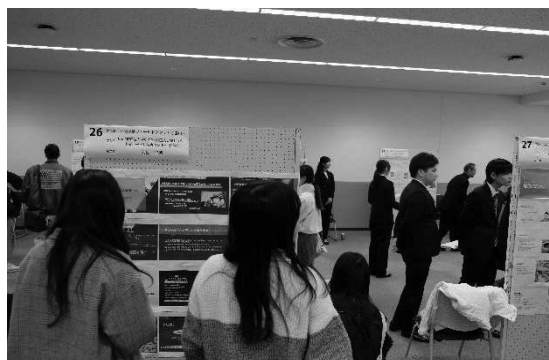
この授業の目的は、2年次の人間福祉国内フィールドスタディⅠ、Ⅱにおける事前学習を踏まえ、受講者の関心に基づいたテーマ、目的に応じたフィールドにおいて実施した人間福祉フィールドスタディの経験について、人間福祉の視点や理念、考え方をを用いて、体験を分析、考察し、それらをまとめ報告することである。今年度は6名の学生が履修した。

(*フィールドスタディ先は巻末参照)

【授業内容】

学期	日程	内容
春学期	4月14日【合同授業】	・オリエンテーション
	4月～7月【個別指導】	フィールドスタディ振り返り、共有、報告準備など
	6月30日	FSⅠクラスにて報告&相談会
	7月14日、7月21日	報告発表会
秋学期	9月22日【合同授業】	オリエンテーション
	10月～12月【個別指導】	・報告書（夏期休暇中の課題）作成と指導 ・実践教育報告会 報告ポスター準備
	12月13日	実践教育報告会

【実践教育報告会の様子】



人間福祉海外フィールドスタディ I

【担当教員】 安藤 幸、溝畑 潤、武田 丈

【授業目的】

秋学期の人間福祉海外フィールドスタディⅡ、及び3年時の人間福祉海外フィールドスタディⅢに向けた事前学習と、海外のフィールドスタディにおける問題意識の形成について学んでいくことを目的とする。また、海外における様々な社会的課題に取り組む機関および体育、スポーツに取り組む組織（社会的企業、NPO、NGO、国際機関、福祉機関、教育機関、市民団体、ボランティア団体など）から講師をお招きし、実習を行うための基礎知識を深める。今年度は8名が履修した。

【授業内容】

回	日時	内容
1	4月14日	【国内・海外合同】オリエンテーション□国内フィールドスタディと海外フィールドスタディ
2	4月21日	【国内・海外合同】フィールドスタディとは何か？
3	4月28日	国・地域別ゲストスピーカー（1） フィリピン 穴田 久美子 氏
4	5月12日	国・地域別ゲストスピーカー（2）ニュージーランド Japanese restaurant Okome 小林 尚人氏 HALO SPORT 鮫島 奨氏
5	5月19日	台湾でのフィールドスタディについて
6	5月26日	人間福祉海外フィールドスタディ 実習経験者との集い（1）
7	6月2日	人間福祉海外フィールドスタディ 実習経験者との集い（2）
8	6月9日	人間福祉海外フィールドスタディ 実習経験者との集い（3）
9	6月16日	海外FSⅡの履修に向けたグループワーク（1）
10	6月23日	海外FSⅡの履修に向けたグループワーク（2）
11	6月30日	海外FSⅡの履修に向けたグループワーク（3）
12	7月7日	実習先国と現地での実習についてのプレゼンテーション（1）
13	7月17日	実習先国と現地での実習についてのプレゼンテーション（2）
14	7月21日	実習先国と現地での実習についてのプレゼンテーション（3）

人間福祉海外フィールドスタディⅡ

【担当教員】 溝畑 潤、武田 丈

【授業目的】

春学期に履修した人間福祉海外フィールドスタディⅠで学習した基礎知識を活かし、海外における様々な社会的課題に取り組む機関および体育、スポーツに取り組む組織（社会的企業、NPO、NGO、国際機関、福祉機関、市民団体、ボランティア団体など）において200時間程度の実習を行う為に、各自が設定した実習先国の各施設と交渉し、実習に行く準備をする。また、各自の学習目標（例：組織の運営、広報活動、社会的な課題の解決の方策やその実践に関する知識や技術などの習得など）が実習先で達成できるよう準備をする。

今年度は6名が履修し、ニュージーランド、フィリピン、ネパールでのフィールドスタディに向けた事前学習を行った。

【授業内容】

第1期（第1回目～第5回目）

- ・各自が希望するフィールドスタディ先機関の組織形態、運営形態、活動内容の詳細に関するリサーチ、発表、議論

第2期（第6回目～第10回目）

- ・具体的で詳細な、その機関でのフィールドスタディの目的と達成目標に関するリサーチ、発表、議論

第3期（第11回目～第14回目）

- ・具体的なフィールドスタディのスケジュールや活動内容に関するリサーチ、発表、議論

人間福祉海外フィールドスタディⅢ

【担当教員】 溝畑 潤、安藤 幸、武田 丈

【授業目的】

この科目では、人間福祉海外フィールドスタディⅡを踏まえて、春季または夏季休暇期間に海外のソーシャルサービス関連の専門機関や NGO 等でフィールドスタディを実施した後に、体験を分析、考察し、それらをまとめて報告する。

今年度はルワンダ・ネパール・フィリピン・ニュージーランド、台湾、コロンビアに渡航しフィールドスタディを行った 12 名が履修した。

【授業内容】

春季休暇

- ・海外機関でのフィールドスタディ開始(200 時間)

春学期 ～ 秋学期

- ・フィールドスタディに関する事後指導
- ・報告書作成
- ・クラス内報告会や実践教育報告会でのポスターセッションの準備など

【授業・実践教育報告会での報告の様子】



人間福祉フィールドスタディ

【担当教員】市瀬 晶子、柴田 学、武田 丈、溝畑 潤、森藤 ちひろ、山 泰幸、
李 善恵

【授業目的】

この科目では、前年度の人間福祉国内フィールドスタディⅠ・Ⅱ、人間福祉海外フィールドスタディⅠ・Ⅱにおける事前学習を踏まえ、様々な社会課題に取り組むフィールドにおいて現場実習を行うことを目的とする。国内では90時間以上、海外では概ね200時間実施する。なお、今回は国内7名、海外12名がフィールドスタディを実施した。

フィールドスタディ先	学生数 (名)
特定非営利活動法人白浜レスキューネットワーク	1
社会福祉法人神戸YMCA 福祉会 西宮YMCA	1
特定非営利活動法人なごみ	1
ANA ウィングフェローズ・ヴィ王子株式会社 大阪事業所	1
特定非営利活動法人 MixRainbow	1
特定非営利活動法人神戸定住外国人支援センター	1
神戸アジアン食堂バル SALA	1
Haru no Hinata	1
Bihani Social Venture	1
Association for Craft Producers	1
Mahaguthi Craft with Conscience	1
ABC Nepal	1
SOCHAI	1
Mulindi	1
Japan One Love Project	
Kanlungan sa Er-Ma Ministry Inc,	2
HABI footwear and lifestyle	
St. THOMAS OF CANTERBURY COLLEGE	1
台湾	2

計 19名

アドバンスト・フィールドワーク

【担当教員】 甲斐 知彦、武田 丈

【授業内容】

人間福祉研究科博士課程前期課程において、人間福祉に関わる理論と実践を体験として連関させ、現代社会における人間の幸福（well-being）の意味の探求と人と環境の相互作用におけるさまざまな問題を抱える人々への支援を計画、立案、実践できる人材育成に必要な研鑽を積むことを目的とする。

具体的には、社会福祉機関、スポーツ科学関連施設、医療機関、NPO/NGO、公的機関、教育機関などで実習、及び研究テーマに即した現地調査やフィールドワークを約 300 時間行う。今年度は 2 名が履修した。

【スケジュール】

春学期前半は、実習計画書作成と実習受け入れ先の調整と依頼、そして実習内容の確定にあてられる。春学期後半及び秋学期は、計画書に基づき、実習及びフィールドワークが実施される。担当教員と定期的なミーティングを実施し、実習及びフィールドワークの経過の確認と必要に応じた計画変更が行われる。

社会福祉士・精神保健福祉士国家試験 ☆合格塾☆

実践教育支援室が主催となり、社会福祉士・精神保健福祉士国家試験の受験を考えている学生に対して、合格に向けてよりよい準備を行うための取り組みを実施。2012年からスタートした試みであり、2019年からは3回生の秋学期より受験に向けての取り組みを開始した。

【実施内容】

4年生対象

<社会福祉士・精神保健福祉士国家試験合格対策ガイダンス>

日時：4月21日（月）17：00～18：40 @多機能演習室

内容：① 国家試験概要 ② 過年度の結果
 ③ スケジュールについて ④ 学習ツールの紹介

<模擬試験>

日時：8月1日（金）9：50～16：00 @F号館102教室

参加人数：45名

<ソ教連統一模試>

日時：10月25日（土）9：50～16：00 @G号館326教室

参加人数：35名

<福祉教育カレッジ全国統一模試>

日時：12月20日（土）9：50～16：00 @G号館326教室

参加人数：36名

<受験直前対策講座>

学生の苦手科目を中心に対策講座を企画し、受験直前の12月、1月に実施した。
詳細は下表のとおり。

日程	科目	担当講師	受講者数
12月11日(木) 13:20~18:40	社会保障	竹元 志保	25名
12月18日(木) 13:20~16:50	更生保護制度 介護保険	竹元 志保	25名
1月16日(金) 15:10~19:50	地域福祉と包括的支援体制	竹元 志保	26名

(計3日間)

<自習室開放>

日時：8月4日(月)~12日(火)、22日(金)~29日(金)

1月13日(火)~29日(木) 9:00~16:30

@グループワーク室

利用人数：各日2~4名程度

3年生対象

<受験勉強についてのオリエンテーション>

日時：9月25日(木) 5限 @G号館202教室

内容：① 国家試験の説明 ② 受験の心構え

③ 学習計画について ④ 試験勉強の方法

<模擬試験①>

日時：10月4日(土) 9:50~16:00 @G号館326教室

参加人数：48名

<模擬試験②>

日時：2月14日(土) 9:50~16:00 @G号館326教室

参加人数：34名

ソーシャルワーク実習合同懇談会

【目的】

社会福祉士養成のためのソーシャルワーク実習において、実習先施設・機関と養成校との連携を図るための情報共有・意見交換の場として、現場の職員の方々と本学教職員を交えた実習合同懇談会を実施する。

【内容】

実習領域別のグループディスカッションと、その後の全体会で各領域からの報告による共有を行った。グループディスカッションでは今年度の実習の振り返りと、A実習とB実習の連携や今後の2か所実習の進め方などについて、率直な意見交換を行った。

【日時】 2026年2月27日（土）18:30～20:30

【場所】 関西学院大学大阪梅田キャンパス

【プログラム内容】

18:00～	受付
18:30～18:45	開会挨拶、開催趣旨説明・全体報告
18:45～19:40	領域別振り返り&ディスカッション

【課題テーマ】

- ①今年度実習の振り返り
(A実習とB実習の連携を含む)
- ②実習日誌のICT化について
- ③その他

19:40～20:20	各領域からの報告
20:20～20:30	次年度に向けて



【参加者】 施設・機関職員 21名、教職員 29名 計 50名

社会起業学科 新入生歓迎プログラム 「これが社起や DAY!!2025」

【概要】

毎年恒例となった社会起業学科の新入生を対象としたイベントを実施した。学科についての学び、どのような大学生活を送るのかを考える機会を持つこと、また同じ学科の仲間・先輩・教員との交流の場を提供することを目的としている。今年度は社会起業学科2年生31名が主体となり運営・企画を行った。

【日時】 2025年4月5日(土) 10:30~15:00

【場所】 G号館 301・201・202 教室

【プログラム】

時間	内容
10:00~10:30	受付
10:30~11:40	アイスブレイク
11:50~12:30	校内案内
12:30~13:30	ランチ
13:30~14:30	G号館ゲーム
14:30~16:00	学び・履修相談会

【参加者】 計 116名

(1年生85名、学生スタッフ31名)

【当日の様子】



人間福祉学部 実践教育報告会

【目的】

人間福祉学部では2008年度の学部設立以来、学内での学びを踏まえた具体的な実践の場として、様々な実践教育プログラムを展開している。2011年度より、全学科の実践教育を報告する場として「人間福祉学部 実践教育報告会」を開催しており、昨年度に引き続きポスターセッション方式により実施し、他実践教育の報告を通しての学びや気づきを、全体で共有した。

【日時】 2025年12月13日（土）
13:00～15:45

【場所】 G301・G201・G202・G203・G204・G207・G208

【タイムスケジュール】

- 13:00～ 13:10 開会・学部長挨拶
- 13:10～ 13:20 概要説明
- 13:30～ 15:00 ポスターセッション
- 15:15～ 15:45 閉会

※同日 11:00～12:00に『精神保健福祉援助実習報告会』、『学校ソーシャルワーク実習報告会』を実施。

【当日の様子】





【当日の参加者数】

参加者	人数
報告者 <社会福祉学科> ・ソーシャルワーク実習 ・学校ソーシャルワーク実習 ・精神保健福祉援助実習 <社会起業学科> ・社会起業フィールドワーク（国内・海外） ・社会起業アドバンスト・インターンシップ ・社会起業プラクティス <3学科共通> ・人間福祉フィールドスタディ(国内・海外) ・大学院アドバンスト・フィールドワーク	110
その他学生	90
教員・助手	45
実習施設関係者・一般（卒業生等）	6
合計	251

福祉系進路相談セミナー

今年度は、社会福祉学科の学生を対象に、講座を開催した。講座全体の目的としては、学生に対し、福祉業界での就職活動の流れや、福祉職の具体的なイメージを形成する機会、並びに現在の授業や実習での学びが将来の仕事にどのように結びつくのかについての見通しを立てる機会を提供することが挙げられる。

講座ではゲストスピーカーを招き、ワークショップを交えた講演を実施した。

『一般就職？福祉就職？まよっているあなたも』

一般社団法人 FACE to FUKUSHI より福祉系就職を目指すあるいはまだ迷っている学生に対し、一般就職並びに福祉就職における就職活動のスケジュールや準備、自己理解を深めるためのワークショップを行った。

★ 講師：上杉 きよみ氏（一般社団法人 FACE to FUKUSHI）

★ 日時：2025年12月18日（水）17:00～18:30

★ 場所：G号館 307

★ 参加者数：15名

★ 内容

- ・ FACE to FUKUSHI の取り組みについて&自己紹介
- ・ 福祉就活の始め方、進め方
- ・ ミニ自己分析ワーク
- ・ 自己分析&業界研究のポイント解説
- ・ 福祉の仕事について
- ・ 就職フェア FUKUSHI meets! のご案内
- ・ 質疑応答など

一般就職？
福祉就職？
迷っているあなたも

ドリンク片手に覗いてみませんか

2025 12.18 THU
OPEN 17:00-

社会福祉法人って実際どんな感じなの？

福祉就職の魅力ってなんなん？

お給料とか、キャリア形成とかってどうなるの？

FACE to FUKUSHI
上杉さんからの話とワーク

G号館 307

問合せ先：実践教育支援室（平井）
fwork@kwansei.ac.jp

https://f2t.or.jp/

2025年度 実習・インターンシップ等概要データ

実践科目履修者数

学科別	実践教育科目名	人数/名
社会福祉学科	ソーシャルワーク実習	51
	精神保健福祉援助実習	1
	学校ソーシャルワーク実習	1
社会起業学科	社会起業フィールドワーク（国内）	53
	社会起業フィールドワーク（海外）	17
	社会起業アドバンスト・インターンシップ	15
人間科学科	人間科学フィールドワーク	0
3学科共通	人間福祉国内フィールドスタディ	7
	人間福祉海外フィールドスタディ	12
人間福祉研究科	アドバンスト・フィールドワーク	2
合計		159

人間福祉学部学生数

学年別	1年生	2年生	3年生	4年生	合計
社会福祉学科	109	105	113	136	463
社会起業学科	96	89	90	120	395
人間科学科	114	111	96	119	440
合計	319	305	299	375	1298

国家試験結果（厚生労働省データ）

	受験者数	合格者数	合格率
社会福祉士	51	39	76.5%
精神保健福祉士	1	1	100.0%

2025年度 実習・インターンシップ・フィールドワーク先一覧

◆ソーシャルワーク実習◆

(順不同)

	種別	施設・機関・団体名	所在地
1	医療	医療法人（財団）はあとふる 八尾はあとふる病院	大阪府八尾市
2	医療	社会医療法人大道会 森之宮病院	大阪府大阪市
3	医療	医療法人社団顕鐘会 神戸百年記念病院	兵庫県神戸市
4	医療	済生会大阪北リハビリテーション病院	大阪府大阪市
5	医療	医療法人協和会 第二協立病院	兵庫県川西市
6	医療	社会医療法人愛仁会 愛仁会リハビリテーション病院	大阪府高槻市
7	医療	医療法人協和会 協立記念病院	兵庫県川西市
8	医療	社会医療法人愛仁会 高槻病院	大阪府高槻市
9	医療	社会医療法人愛仁会 尼崎だいもつ病院	兵庫県尼崎市
11	公的 扶助	神戸市兵庫区福祉事務所	兵庫県神戸市
13	公的 扶助	大阪市西区保健福祉センター	大阪府大阪市
14	公的 扶助	社会福祉法人ヨハネ会 救護施設ヨハネ寮	兵庫県神戸市
15	公的 扶助	社会福祉法人みなと寮 救護施設こうせいみなと	大阪府大阪市
16	公的 扶助	社会福祉法人みなと寮 救護施設千里寮	大阪府吹田市
17	地域	宝塚市社会福祉協議会	兵庫県宝塚市
18	地域	三田市社会福祉協議会	兵庫県三田市
19	地域	豊中市社会福祉協議会	大阪府豊中市
20	地域	伊丹市社会福祉協議会	兵庫県伊丹市
21	地域	泉佐野市社会福祉協議会	大阪府泉佐野市
22	地域	八尾市社会福祉協議会	大阪府八尾市
23	地域	加古川市社会福祉協議会	兵庫県加古川市
24	地域	西宮市社会福祉協議会	兵庫県西宮市

25	母子	社会福祉法人神戸新生福祉会 グリーンコート新生	兵庫県神戸市
26	母子	社会福祉法人みおつくし福祉会 南さくら園	大阪府大阪市
27	母子	社会福祉法人大念仏寺社会事業団 ボ・ドーム大念仏	大阪府大阪市
28	母子	社会福祉法人みおつくし福祉会 リアン東さくら	大阪府大阪市
29	母子	社会福祉法人みおつくし福祉会 北さくら園	大阪府大阪市
30	母子	社会福祉法人三光事業団 ファミリエひかり	兵庫県西宮市
31	児童	大阪市中央子ども相談センター	大阪府大阪市
32	児童	大阪市立阿武山学園	大阪府高槻市
33	児童	児童養護施設 神戸少年の町	兵庫県神戸市
34	児童	児童心理治療施設 希望の杜	大阪府高槻市
35	児童	京都府立淇陽学校	京都府南丹市
36	児童	児童養護施設 子供の家	兵庫県尼崎市
37	児童	児童養護施設 大阪西本願寺常照園	大阪府吹田市
38	高齢	社会福祉法人神戸福生会 御蔵あんしんすこやかセンター	兵庫県神戸市
39	高齢	社会福祉法人 ヒューマンライツ協会 西成区北西部地域包括支援センター	大阪府大阪市
40	高齢	社会福祉法人聖徳園 あしや聖徳園	兵庫県芦屋市
41	高齢	社会医療法人愛仁会 高槻北地域包括支援センター	大阪府高槻市
42	高齢	社会福祉法人嵐山寮 嵐山寮特別養護老人ホームうたの	京都府京都市
43	高齢	社会福祉法人甲山福祉センター 深津地域包括支援センター	兵庫県西宮市
44	高齢	社会福祉法人慶生会 東生野地域包括支援センター	大阪府大阪市
45	高齢	社会福祉法人愛和会 宝塚あいわ苑	兵庫県宝塚市
46	高齢	社会福祉法人愛和会 緑地地域包括支援センター	大阪府豊中市
47	高齢	社会福祉法人のじぎく福祉会 のじぎくの里	兵庫県高砂市
48	高齢	社会福祉法人協同の苑 K-maisonときめき 神津・有岡地域包括支援センター	兵庫県伊丹市
49	高齢	社会福祉法人神戸老人ホーム 光明苑	兵庫県神戸市
50	高齢	社会福祉法人大阪自彊館 特別養護老人ホームジュネス	大阪府大阪市
51	高齢	社会福祉法人聖徳園 にしのみや聖徳園	兵庫県西宮市
52	高齢	社会福祉法人亀望会 江之子島コスモス苑	大阪府大阪市
53	高齢	社会福祉法人千種会 Les芦屋	兵庫県芦屋市

54	高齢	社会福祉法人甲山福祉センター 甲寿園	兵庫県西宮市
55	障害	社会福祉法人かがやき神戸 就労継続支援B型ぐりいと	兵庫県神戸市
56	障害	社会福祉法人 神戸聖隷福祉事業団 障害者支援施設 神戸愛生園	兵庫県神戸市
57	障害	社会福祉法人ライフサポート協会 住吉総合福祉センター	大阪府大阪市
58	障害	社会福祉法人 さつき福祉会 暮らしの支援センターみんなのき	大阪府吹田市
59	障害	一般社団法人ふせ支援ネットワーク ふせまちかど相談所	大阪府東大阪市
60	障害	社会福祉法人ヨハネ会 地域活動支援センター長田	兵庫県神戸市
61	障害	産経新聞厚生文化事業団 福祉相談「くすのき」	大阪府池田市

◆学校ソーシャルワーク実習◆

		施設・機関・団体名	所在地
1	学校	吹田市教育委員会 吹田市立吹田東小学校	大阪府吹田市

◆精神保健福祉援助実習◆

		施設・機関・団体名	所在地
1	病院	社会医療法人寿栄会 ありまこうげんホスピタル	兵庫県神戸市
2	地域	特定非営利活動法人コスモス 地域活動支援センターふらっと	兵庫県宝塚市

◆社会起業フィールドワーク（国内）◆

	施設・機関・団体名	所在地
1	ゆ〜とあい 西成隣保館	大阪府大阪市
2	特定非営利活動法人 IKUNO・多文化ふらっと	大阪府大阪市
3	社会福祉法人 大阪ボランティア協会	大阪府大阪市
4	認定特定非営利活動法人 まなびと	兵庫県神戸市
5	特定非営利活動法人 CODE海外災害援助市民センター	兵庫県神戸市

◆社会起業フィールドワーク（海外）◆

	施設・機関・団体名	所在地
1	Maligaya House	フィリピン
2	Batis Center / Aware	フィリピン
3	ICAN	フィリピン
4	Tahanan ng Mahal sa Puso	フィリピン
5	HIBI Lifestyle	フィリピン
6	Kanlungan sa Er-ma	フィリピン
7	JICA フィリピン事務所	フィリピン

◆社会起業アドバンスト・インターンシップ◆

	施設・機関・団体名	所在地
1	社会福祉法人暁ほほえみ福祉会	島根県益田市
2	株式会社オカムラ 関西支社	大阪府大阪市
3	株式会社BIG EYE COMPANY	徳島県勝浦郡
4	株式会社インテージ	東京都千代田区
5	まち・ヒト・未来創造研究所および芳田自治協議会	兵庫県西脇市
6	Minamiこども教室	大阪府大阪市
7	神戸市定住外国人支援センター	兵庫県神戸市
8	株式会社ボーダレス・ジャパン LIB	福岡県福岡市
9	特定非営利活動法人 IKUNO・多文化ふらっと	大阪府大阪市
10	特定非営利活動法人MixRainbow	兵庫県尼崎市

11	アジア女性自立プロジェクト (AWEP)	兵庫県神戸市
12	Haru no Hinata	コロンビア

◆人間福祉国内フィールドスタディ◆

	施設・機関・団体名	所在地
1	特定非営利活動法人白浜レスキューネットワーク	和歌山県西牟婁郡
2	社会福祉法人神戸YMCA福祉会 西宮YMCA	兵庫県西宮市
3	特定非営利活動法人なごみ	兵庫県西宮市
4	ANAウィングフェローズ・ヴィ王子株式会社 大阪事業所	大阪府豊中市
5	特定非営利活動法人 MixRainbow	兵庫県尼崎市
6	特定非営利活動法人神戸定住外国人支援センター	兵庫県神戸市
7	神戸アジアン食堂バルSALA	兵庫県神戸市

◆人間福祉海外フィールドスタディ◆

	施設・機関・団体名	所在地
1	Haru no Hinata	コロンビア
2	Bihani Social Venture	ネパール
3	Association for Craft Producers	ネパール
4	Mahaguthi Craft with Conscience	ネパール
5	ABC Nepal	ネパール
6	SOCHAI	ネパール
7	Mulindi	ルワンダ
8	Japan One Love Project	ルワンダ
9	Kanlungan sa Er-Ma Ministry Inc,	フィリピン
10	HABI footwear and lifestyle	フィリピン
11	St. THOMAS OF CANTERBURY COLLEGE	ニュージーランド
12	東海大学	台湾

◆アドバンスト・フィールドワーク◆

1	尼崎市立美方高原自然の家	兵庫県美方郡
2	特定非営利活動法人 性暴力被害者支援センター・ひょうご	兵庫県尼崎市

実践教育科目担当教員一覧

◆社会福祉学科◆

「ソーシャルワーク実習入門」

川島 恵美	畠山 由佳子
竹森 美穂	平尾 昌也

「ソーシャルワーク演習Ⅳ」

井岡 仁志	渡邊 健
前川 敦	高橋 味央
前嶋 弘	藤田 譲
中島 尚美	

「ソーシャルワーク演習Ⅴ」

川島 恵美	児玉 志保
竹森 美穂	平尾 昌也

「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」および「ソーシャルワーク実習指導Ⅲ」

安藤 幸	井岡 仁志
池埜 聡	石田 龍太
今井 小の実	岡本 みゆき
川島 恵美	児玉 志保
小林 浩司	佐藤 寿一
高橋 昌子	高橋 爾
高橋 味央	竹森 美穂
田嶋 香苗	中島 尚美
永峰 千鶴	西尾 怜
西田 麻由香	畠山 由佳子
林 眞帆	原 弘輝
平井 亜里砂	平尾 昌也
廣瀬 みどり	福田 孝子
藤井 博志	前川 敦
松岡 克尚	渡邊 健

「精神保健福祉実習指導Ⅱ」「精神保健福祉実習指導Ⅲ」

風間 朋子

「精神保健福祉援助実習」

風間 朋子

「精神保健福祉援助演習Ⅱ」「精神保健福祉援助演習Ⅲ」

風間 朋子

「学校ソーシャルワーク実習」

西野 緑

「ソーシャルワーク論B」

平尾 昌也

竹森 美穂

「ソーシャルワーク論F」

竹森 美穂

平尾 昌也

◆社会起業学科◆

「社会起業フィールドワーク(国内)」

白波瀬 達也

頼政 良太

「社会起業フィールドワーク(海外)」

武田 丈

「社会起業プラクティス」

川中 大輔

田村 幸大

頼政 良太

「社会起業アドバンスインターンシップ」

石田 祐

柴田 学

孫 良

武田 丈

森藤 ちひろ

◆人間科学科◆

「人間科学実習入門」

相川 聖

市瀬 晶子

甲斐 知彦

河緒 一彦

坂口 幸弘

桜井 智恵子

佐藤 博信

橋本 直子

藤井 美和

溝畑 潤

嶺重 淑

山 泰幸

石川 芽生子

廣田 音奏

「運動生理学実験実習」／「スポーツバイオメカニクス実験実習」

河緒 一彦

「野外教育実習A」

甲斐 知彦

◆3学科共通◆

「人間福祉国内フィールドスタディⅠ」

柴田 学

橋本 直子

李 善恵

平尾 昌也

森藤 ちひろ

「人間福祉国内フィールドスタディⅡ」

柴田 学

森藤 ちひろ

橋本 直子

李 善恵

「人間福祉国内フィールドスタディⅢ」

市瀬 晶子

李 善恵

森藤 ちひろ

「人間福祉海外フィールドスタディⅠ」

安藤 幸

溝畑 潤

武田 丈

「人間福祉海外フィールドスタディⅡ」

武田 丈

溝畑 潤

「人間福祉海外フィールドスタディⅢ」

安藤 幸

溝畑 潤

武田 丈

「人間福祉フィールドスタディ」

市瀬 晶子

武田 丈

森藤 ちひろ

柴田 学

溝畑 潤

李 善恵

◆実践教育支援室 スタッフ紹介◆

社会福祉学科	教授	川島 恵美	(室長)
	教授	畠山 由佳子	
社会福祉学科	助教	平尾 昌也	
		竹森 美穂	
実践教育支援室付き	実習助手	石田 龍太	(社会福祉学科担当)
		田嶋 香苗	(社会福祉学科担当)
		池内 純	(社会起業学科担当)
		西田 麻由香	(社会起業学科担当)
		平井 亜里砂	(人間科学科担当)
	実験実習 指導補佐	白小路 麻紀	
	事務職員	西 有佳梨	(庶務担当)

◆2025年度 発行物一覧◆

- ・2025年度 ソーシャルワーク実習 実習報告会
- ・2025年度 4年生実習・インターンシップまとめ
- ・2025年度 社会起業学科実践教育報告集
- ・2025年度 人間福祉フィールドスタディ報告集

2025 年度
関西学院大学人間福祉学部
Annual Report
2026 年 3 月発行

【編集・発行】 関西学院大学人間福祉学部
【連絡先】 関西学院大学人間福祉学部
実践教育支援室
〒662-8501
兵庫県西宮市上ヶ原一番町 1-155
TEL 0798-54-6272



KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY